

SWCCグループ

2019年3月期 第2四半期決算説明会



**Creating for the Future**

**昭和電線ホールディングス（株）**  
**（東証1部：5805）**

**November 8, 2018**

<http://www.swcc.co.jp/>



# 本日の説明項目



## 1. グループ概要とこれまでの軌跡

2. 2019/3期 第2四半期決算報告  
2019/3期 通期業績計画

## 3. 中期経営戦略

昭和電線ホールディングス（株）  
（東証1部：5805）

<http://www.swcc.co.jp/>



SWCCグループ

グループ概要とこれまでの軌跡



Creating for the Future

昭和電線ホールディングス（株）  
（東証1部：5805）

<http://www.swcc.co.jp/>

# 会社概要

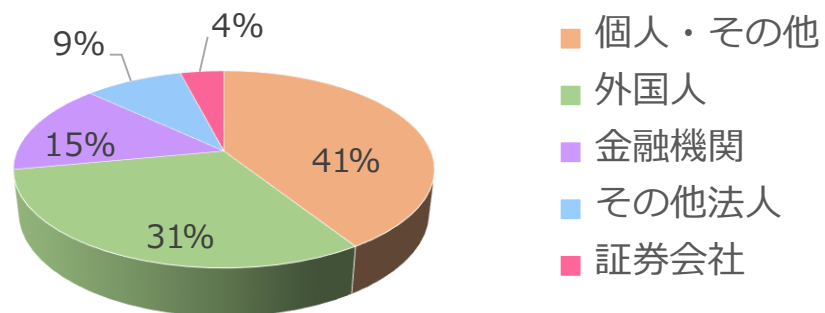
商号:	昭和電線ホールディングス株式会社 SWCC SHOWA HOLDINGS CO.,LTD.
設立:	1936年5月26日
事業内容:	電線等の製造販売を営む子会社の経営管理
本社所在地:	神奈川県川崎市川崎区日進町1-14 キューブ川崎
資本金:	24,221百万円（株主数 15,856名） 2018/3末
決算期:	3月31日
従業員数:	33名(連結:4,757名) 2018/3末
役員:	取締役社長 長谷川 隆代 他常勤取締役 3名、社外取締役 3名 常勤監査役 1名、社外監査役 2名
子会社:	国内外21社、持分法適用関連会社4社、その他1社



取締役社長 長谷川 隆代

- 1984年4月 当社入社
- 2005年6月 当社技術開発センター次長  
兼超電導プロジェクト長
- 2010年4月 昭和電線ケーブルシステム(株)常務取締役、  
当社執行役員、技術企画室長
- 2013年6月 当社取締役
- 2018年6月 当社代表取締役・取締役社長（現任）

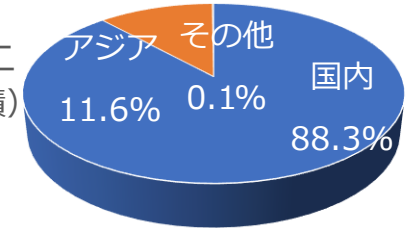
2018/9末  
株主構成



# SWCCグループ概要

＜持株会社＞  
昭和電線ホールディングス

エリア売上  
(2017年度実績)



## 電線線材事業

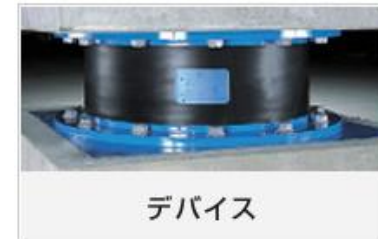
## 電力システム事業

## 巻線事業

## コミュニケーションシステム事業

## デバイス事業

## その他



昭和電線ケーブルシステム  
富士電線, SDS,  
昭和リサイクル等

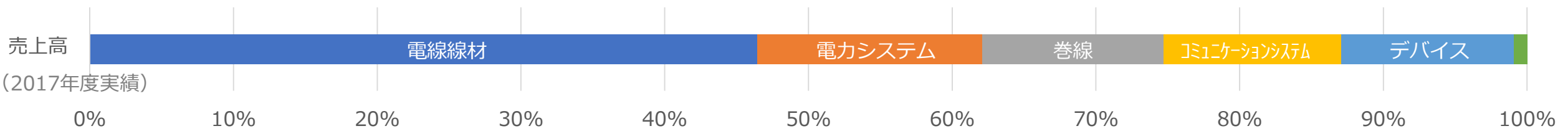
昭和電線ケーブルシステム  
昭光機器工業, SDS,  
エステック等

ユニマック, 多摩川電線  
SDS,  
昭和電線電纜 (上海)

昭和電線ケーブルシステム  
富士電線, 青森昭和電線  
SDS, アクシオ等

昭和電線ケーブルシステム  
ダイジ, 昭和サイエンス,  
SDS, 福清昭和精密電子等

昭和電線ケーブルシステム  
ロジス・ワークス等



# SWCCグループの経営理念

---

～すべては、信頼という名のもとに～



## ■ 経営理念

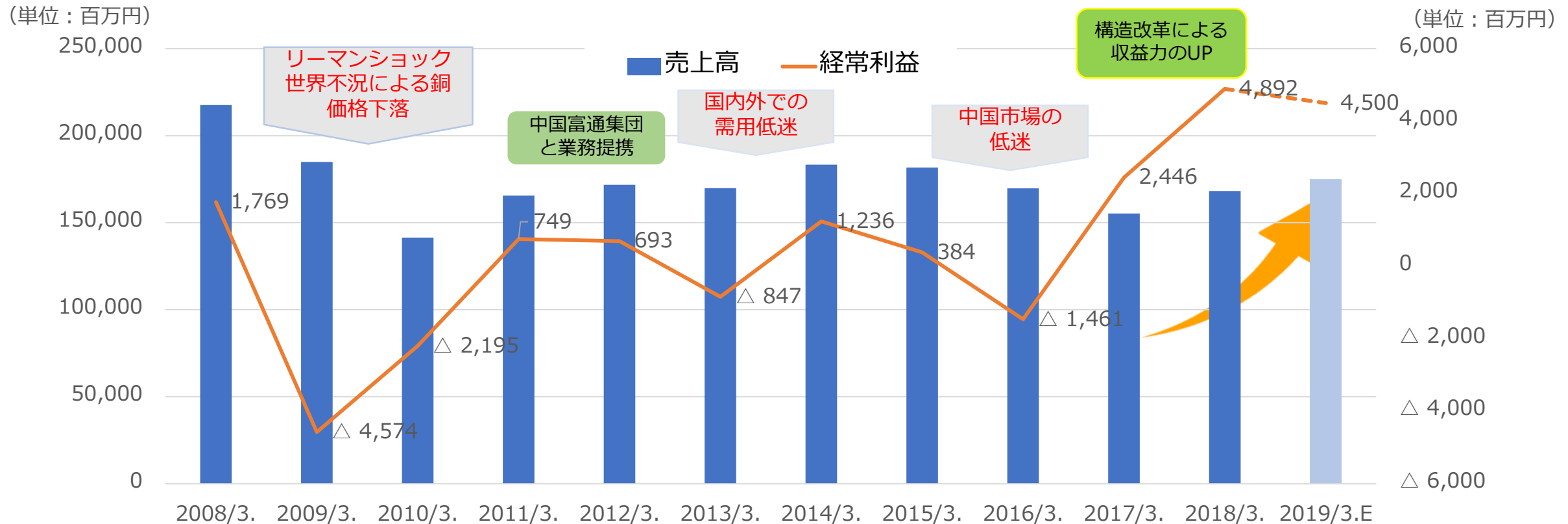
「昭和電線グループは、信頼の輪をひろげます。」

## ■ ステートメント「Creating for the Future」

昭和電線グループは、より良い未来に向かって新しい価値を創造していきます。

# 過去からの業績推移

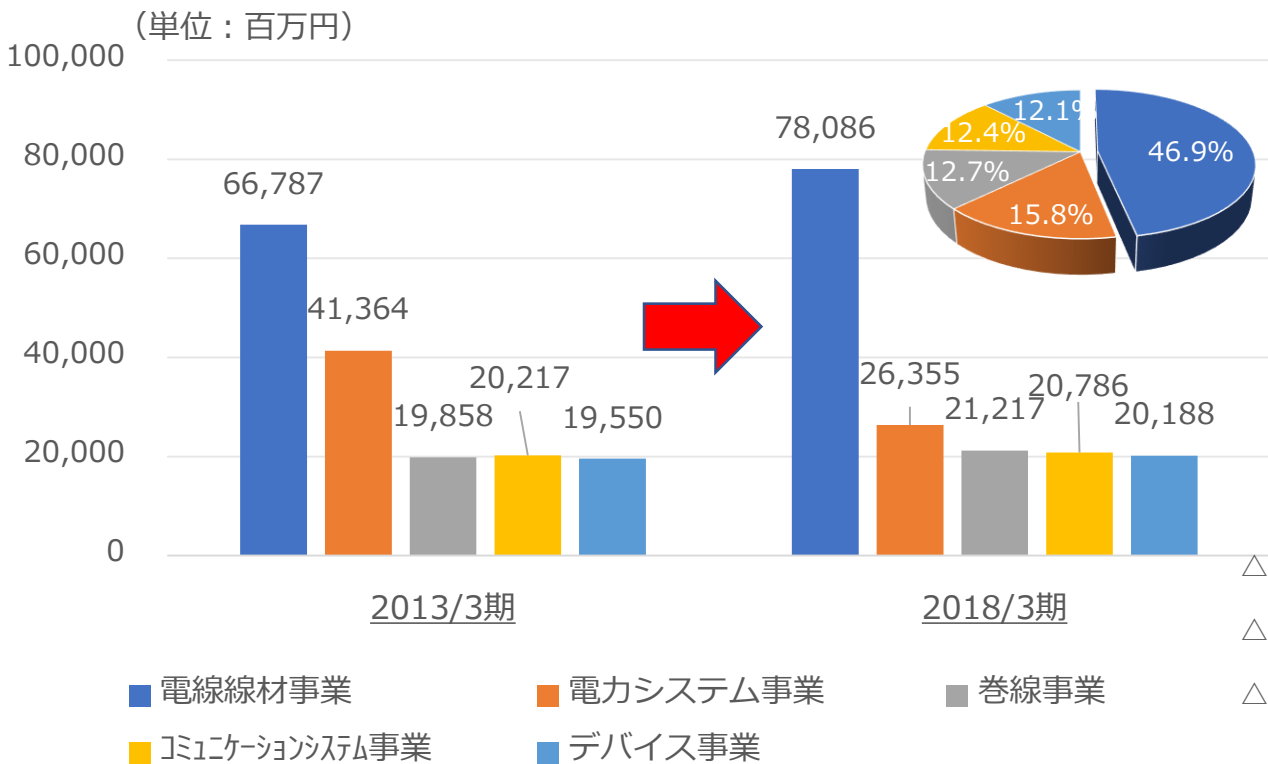
- グループ構造改革の継続により収益体質への転換が進み、銅価格による収益の変動リスクを低減
- 2019年3月期も、期初予想を上方修正
- **中期経営計画「Change SWCC2022」**を今期より推進中



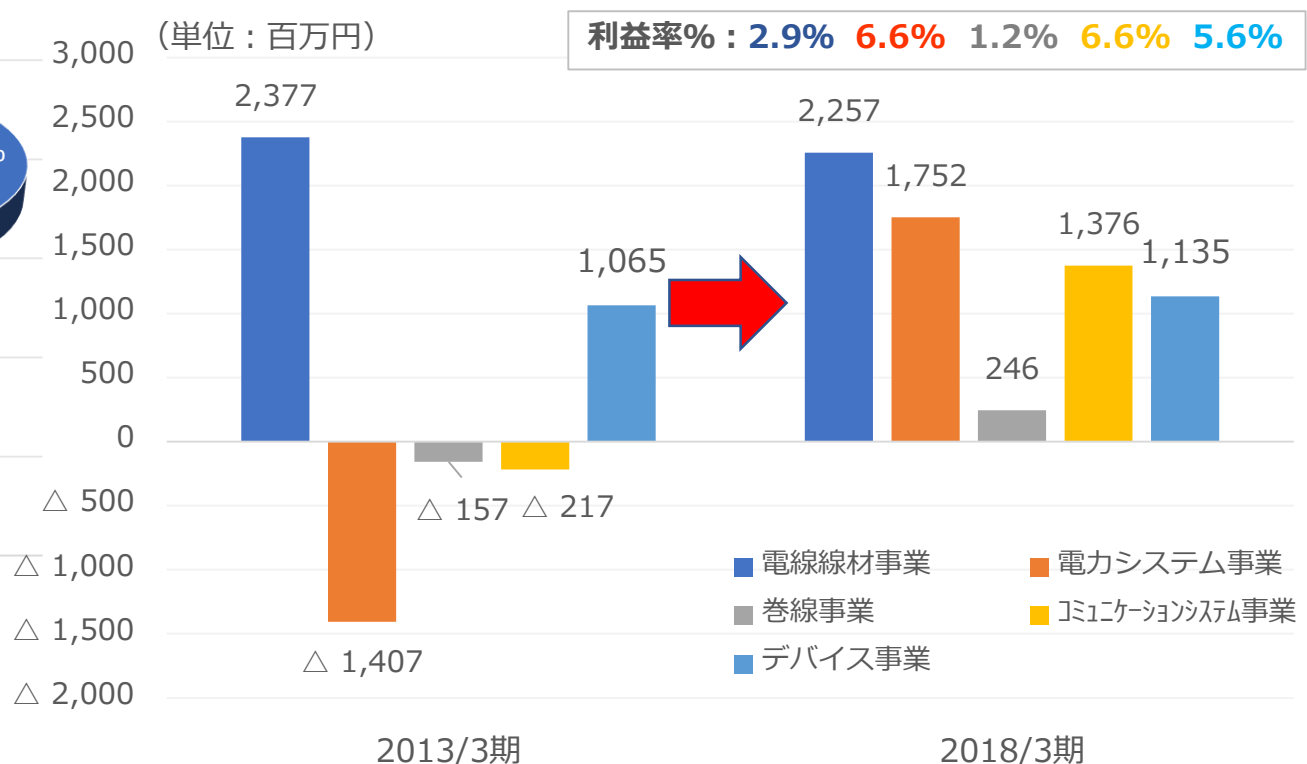
# セグメント売上・利益変化

- 継続的な構造改革により、すべてのセグメントで収益体質となる基盤構築
- 付加価値の高い電力システム・コミュニケーションシステム・デバイス事業の利益率が向上
- 巻線の構造改革は一層の加速

## 売上の変化



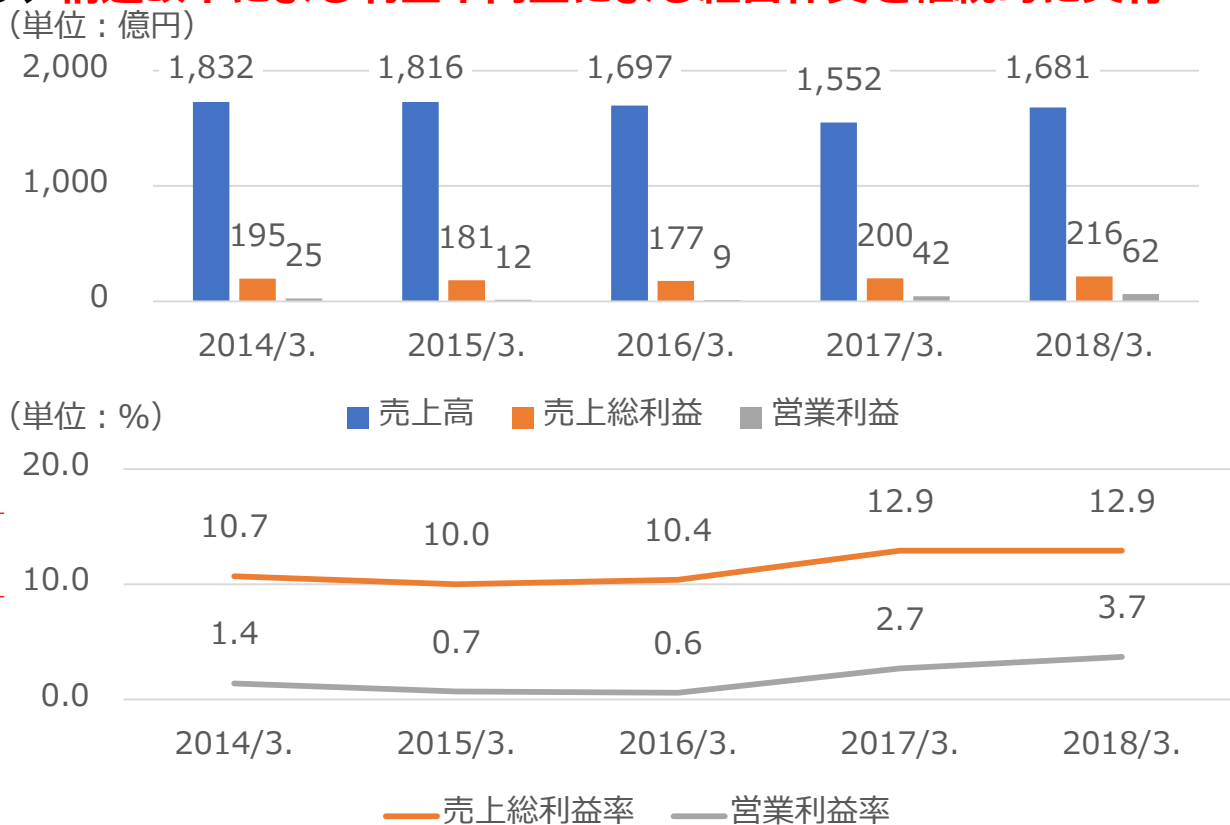
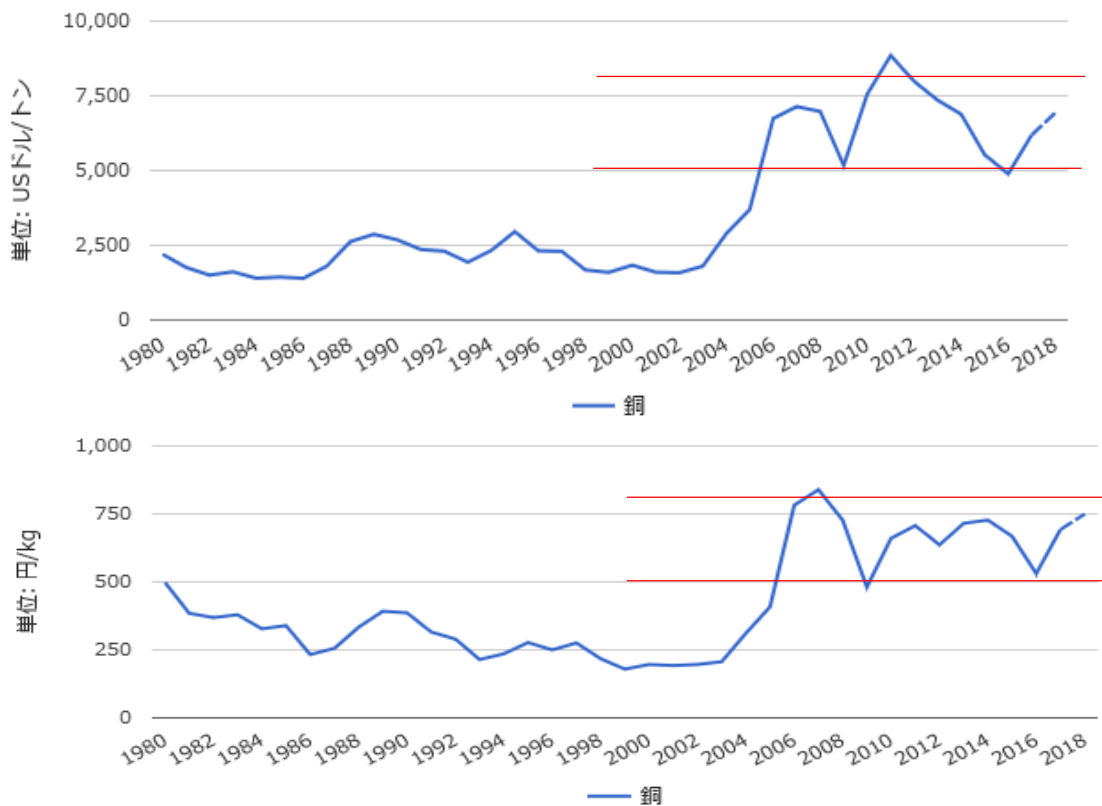
## セグメント利益の変化





# 銅価格と当社売上への影響

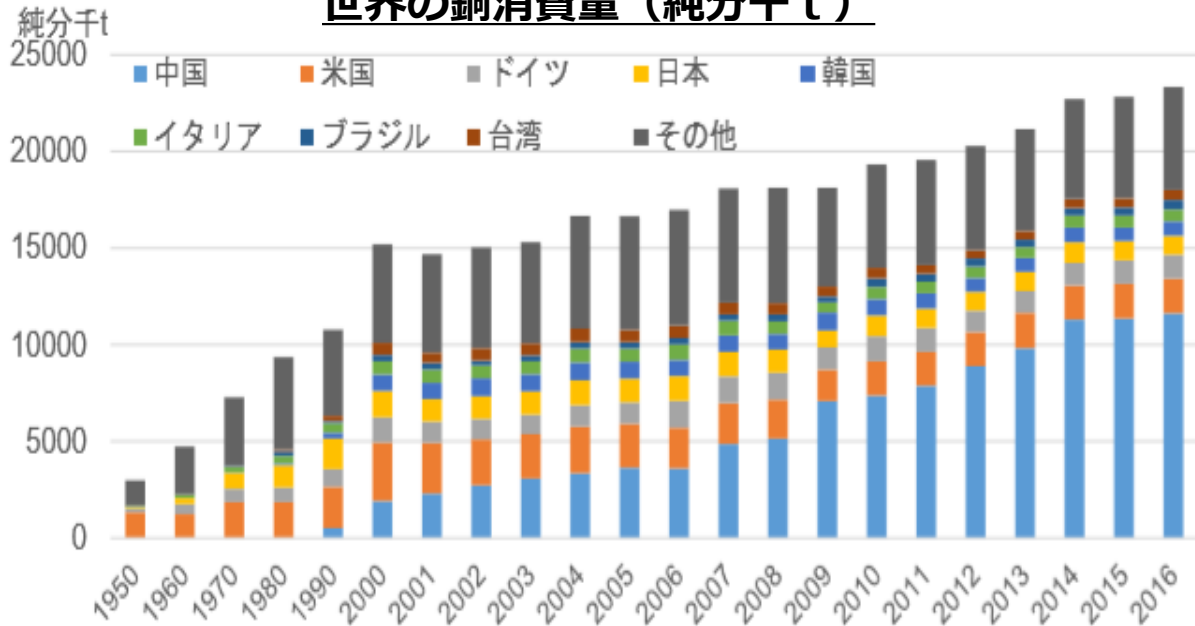
- 銅価格は、中国の旺盛な需要により5,000ドル～7,500ドル圏で推移。
- 銅価格の変動による影響を主に受けるのは売上高で約60%を占める電線線材事業と巻線事業。**当社は銅価格変動の影響を受けない成長領域、セグメント分野に注力し、構造改革による利益率向上による経営体質を継続的に実行**



# 世界の銅市場動向

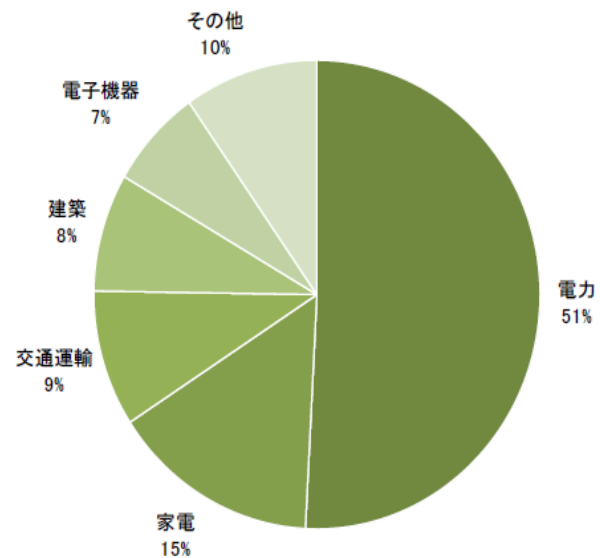
- 世界の銅の消費量は中国が50%以上を占める。用途別では電力設備、家電の順番。
- 2017年6月、国際銅協会（ICA、ニューヨーク）は、**電気自動車（EV）の急速な普及によって、銅の需要が2027年に174万トン（17年見通し比約9倍）**に増加するとの見通しを発表。

世界の銅消費量（純分千t）



出所：独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構より

2016年産業別需要量構成比



<用途>

電力：電力設備(送配電設備)など

家電：空調の熱交換器など

交通運輸：自動車の配線など

建築：バルブ、水栓金具など

電子機器：リードフレーム、プラグ、  
接続子など

出所：三井住友銀行調査レポートより作成

# 中国の富通集団との資本業務提携

- 2011年に中国通信ケーブルトップクラスの富通集団と資本業務提携を実施。
- 当社3つの新規事業領域EV/自動車、FA、医療の中で**EV/自動車**で最大市場となる**中国での展開を加速**。  
(但し、合併工場49 : 51の持分利益)



<http://www.futonggroup.com.cn/en/>



SWCCグループ

2019/3期 第2四半期決算報告



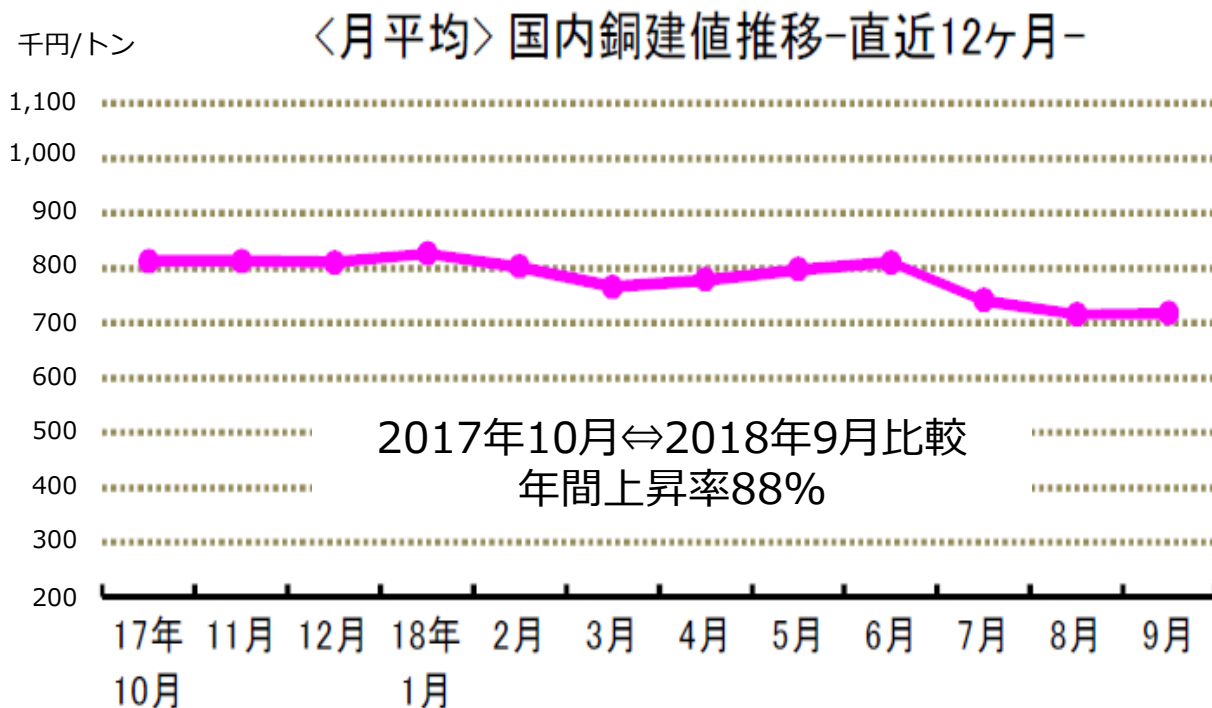
Creating for the Future

昭和電線ホールディングス（株）  
（東証1部：5805）

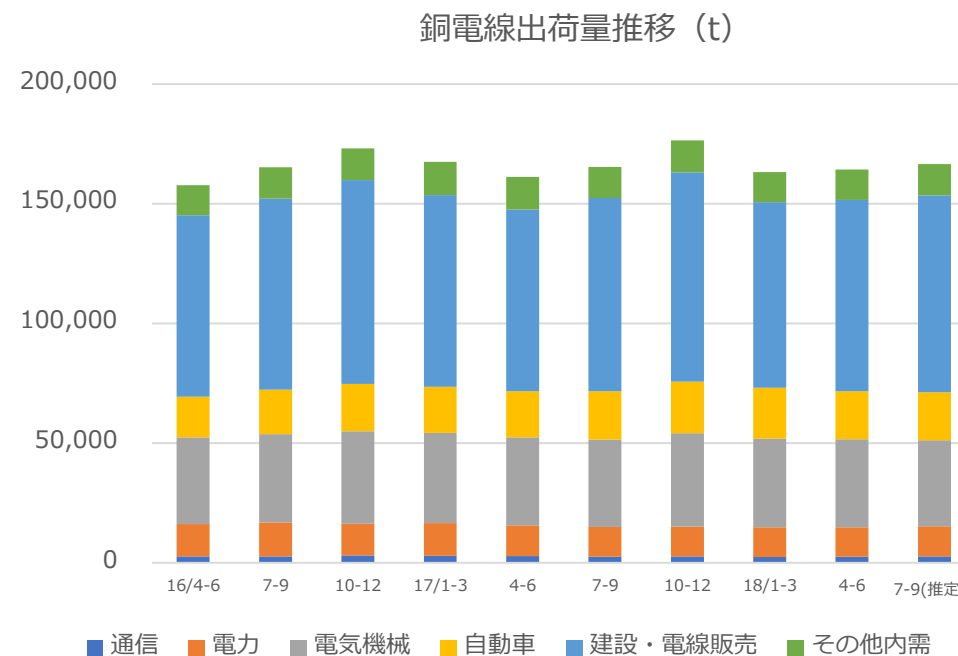
<http://www.swcc.co.jp/>

# マクロ環境

- 国内銅価格は、4-7月は前年同期比較で上昇（円ベース）、8-9月は前年比較で下落するも銅電線出荷量は安定的に推移



出所：(社団) 日本電線工業会データより



出所：(社団) 日本電線工業会データより

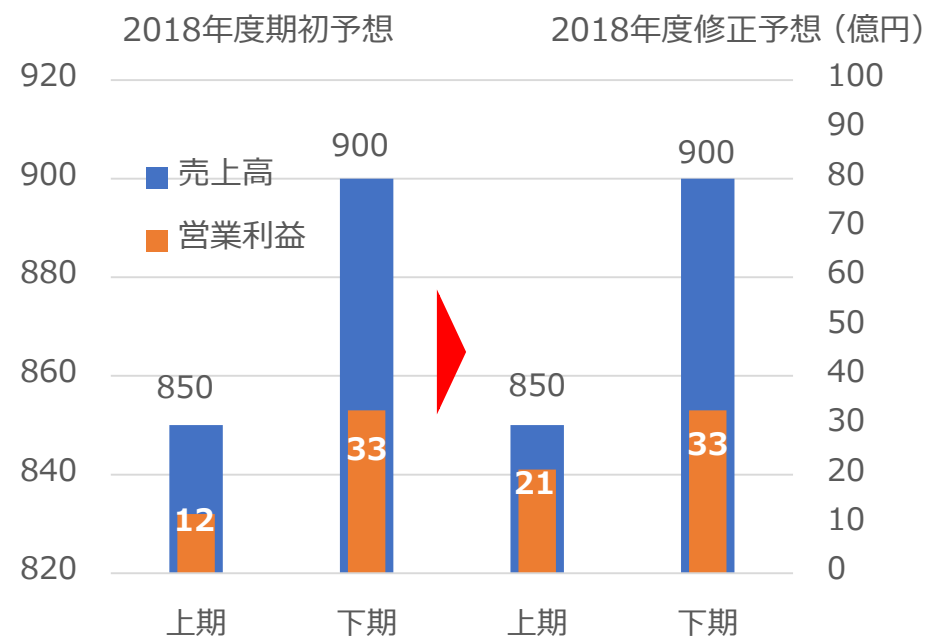
# 上半期総括

## 業績：2019/3期 第2四半期、通期業績の利益ベースを上方修正

- ・ 建設・電販向け電線市場は価格競争が依然として厳しい状況であるが、その他のインフラ関連需要が想定よりも上回った。コミュニケーション事業、デバイス事業が売上・利益ともに伸び全体に貢献。  
2Q実績は、ほぼ修正予想どおりで着地。

## 施策面：新分野

- ・ 収益体質は、着実に向上
- ・ 成長分野、新規分野にも手応え
- ・ 下期は、外部環境の不透明感有り



# 業績上方修正：＜平成30年7月31日リリースご参照＞

- 2019/3期、第2四半期、通期ともに利益ベースで上方修正

上期（百万円）	2018年3月期2Q 前期実績	2019年3月期 2Q収益計画	2019年3月期 2Q実績	計画比 増減%	前年同期比 増減%
売上高	79,884	期初計画 85,000 85,000	85,368	0.4%	6.9%
営業利益	2,619	1,200 2,100	2,263	7.8%	△13.6%
経常利益	2,147	700 1,700	1,861	9.5%	△13.4%
四半期純利益	1,030	500 1,200	1,305	8.8%	26.6%

通期（百万円）	2018年3月期 前期実績	2019年3月期 期初計画	2019年3月期 修正計画	計画比 増減%	前年度比 増減%
売上高	168,186	175,000	175,000	-	4.1%
営業利益	6,276	4,500	5,400	20.0%	△14.0%
経常利益	4,892	3,500	4,500	28.6%	△8.0%
当期純利益	3,737	2,600	3,300	26.9%	△11.7%

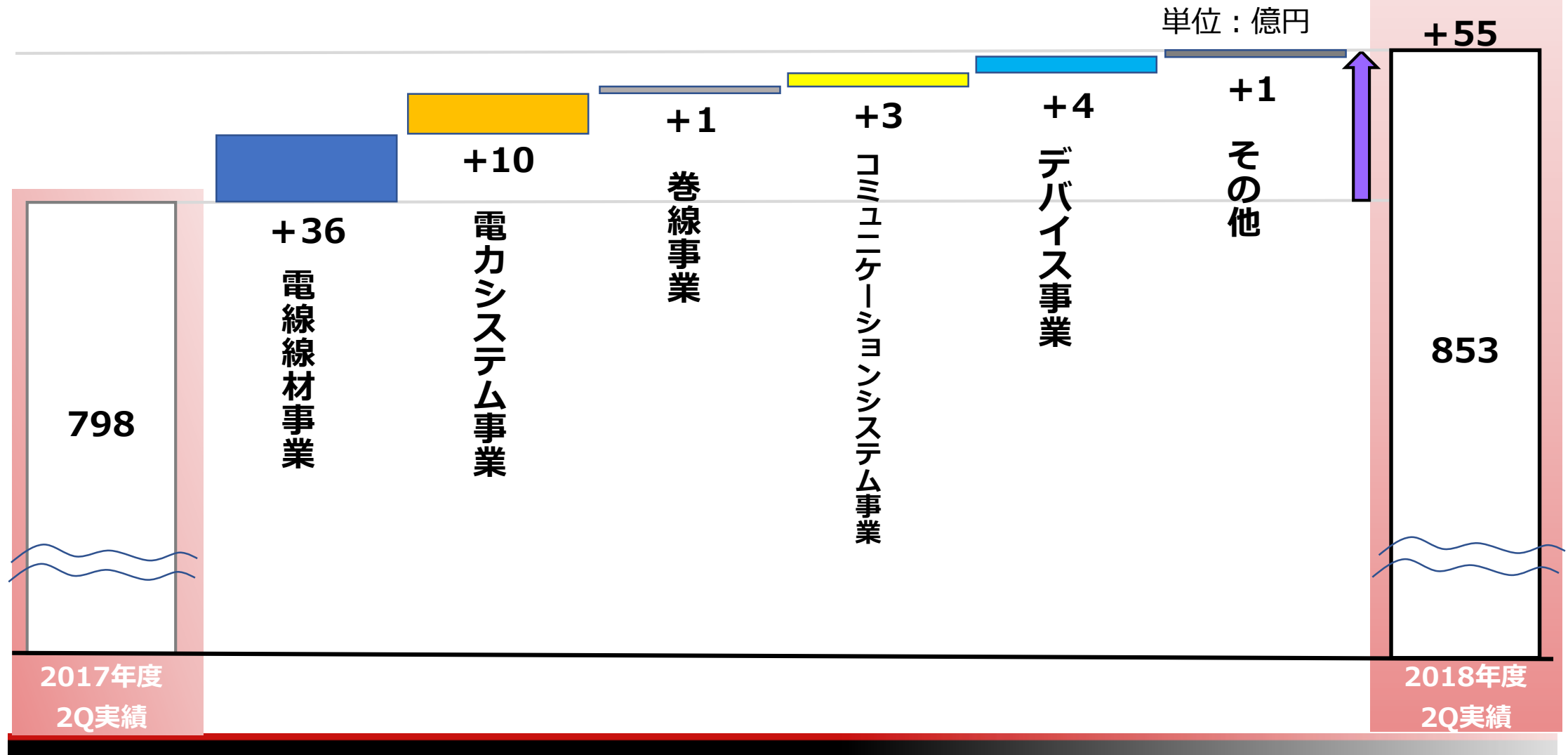
# 2Q 連結損益計算書（前年同期比）

- 今期の親会社株主に帰属する四半期純利益ベースでは前年同期比で+26.6%の13億円となった。

(単位：億円)	2017年度 2Q実績	構成 %	2018年度 2Q実績	構成 %	前年同期比 %
<b>売上高</b>	<b>798</b>	—	<b>853</b>	—	<b>+6.9%</b>
<b>売上総利益</b>	<b>101.9</b>	<b>12.8%</b>	<b>97.6</b>	<b>11.4%</b>	<b>△4.2%</b>
<b>営業利益</b>	<b>26.1</b>	<b>3.3%</b>	<b>22.6</b>	<b>2.7%</b>	<b>△13.6%</b>
<b>経常利益</b>	<b>21.4</b>	<b>2.7%</b>	<b>18.6</b>	<b>2.2%</b>	<b>△13.4%</b>
<b>親会社株主に 帰属する 四半期純利益</b>	<b>10.3</b>	<b>1.3%</b>	<b>13.0</b>	<b>1.5%</b>	<b>+26.6%</b>

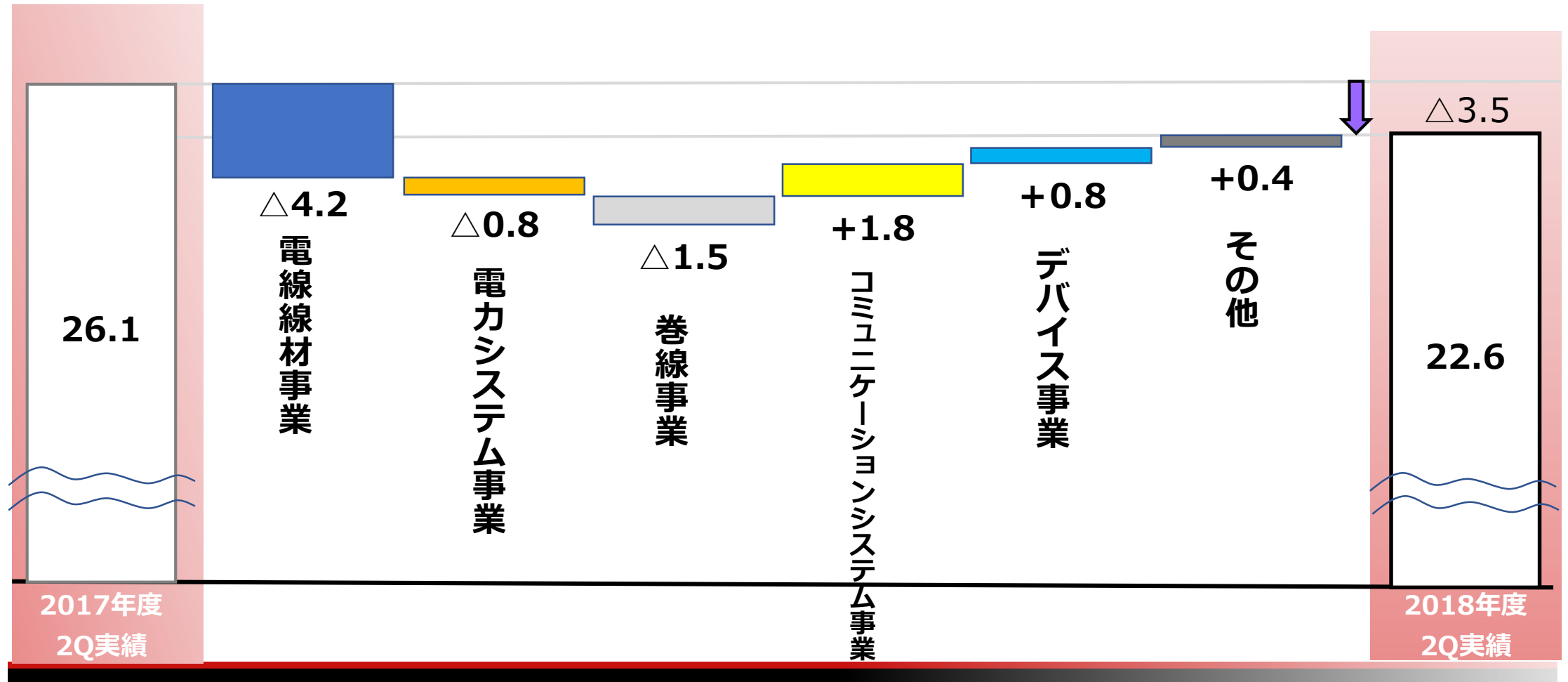


# 売上高の増減（前年同期比）



# 営業利益の増減（前年同期比）

単位：億円

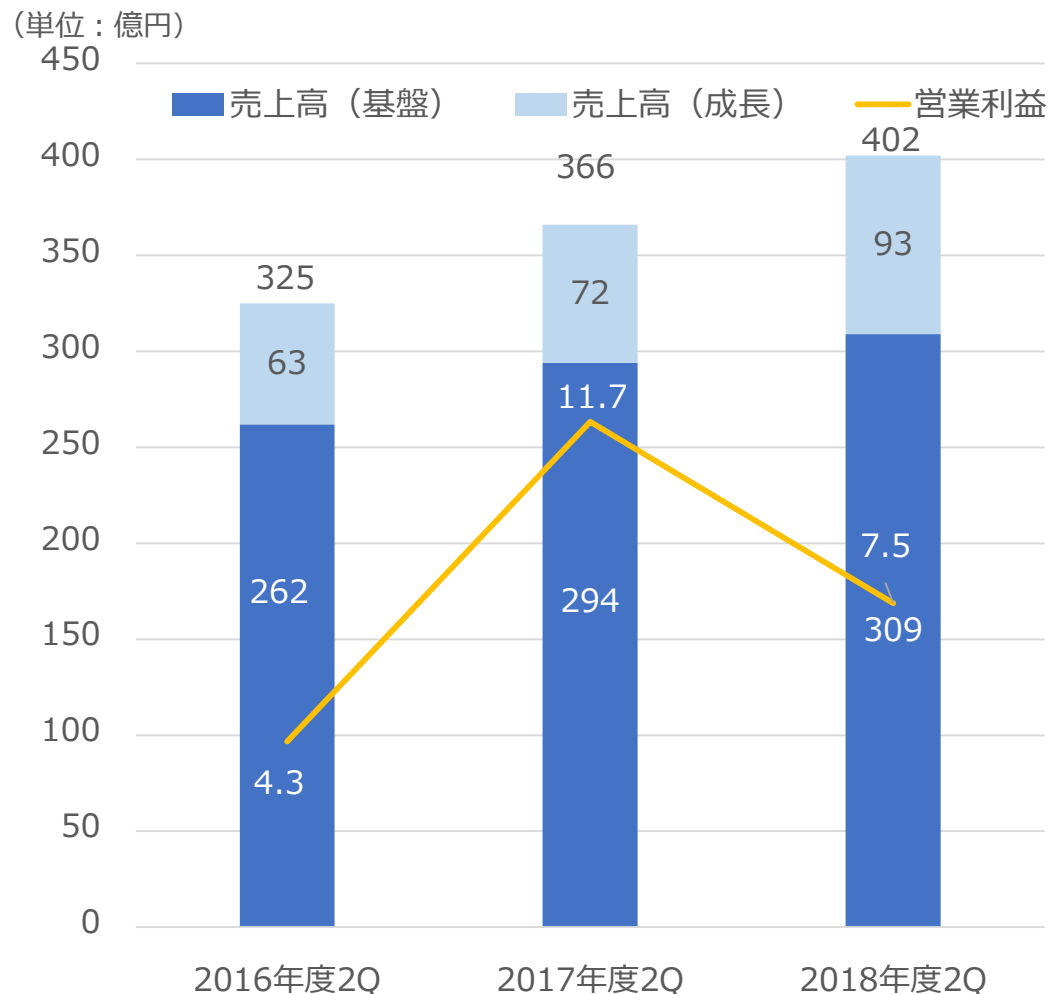


# 2Q セグメント情報（前年同期比）

- 電線線材・電力システム事業、巻線事業は増収・減益  
コミュニケーションシステム・デバイス事業は増収・増益となった

(単位：億円)	2017年度 2Q実績		2018年度 2Q実績		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
電線線材	366	11.7	402	7.5	+36	△4.2
電力システム	122	5.2	132	4.4	+10	△0.8
巻線	102	1.2	103	△0.3	+1	△1.5
コミュニケーション システム	100	4.8	103	6.6	+3	+1.8
デバイス	100	5.2	104	6.0	+4	+0.8
その他	8	△2.0	9	△1.6	+1	+0.4
合 計	798	26.1	853	22.6	+55	△3.5

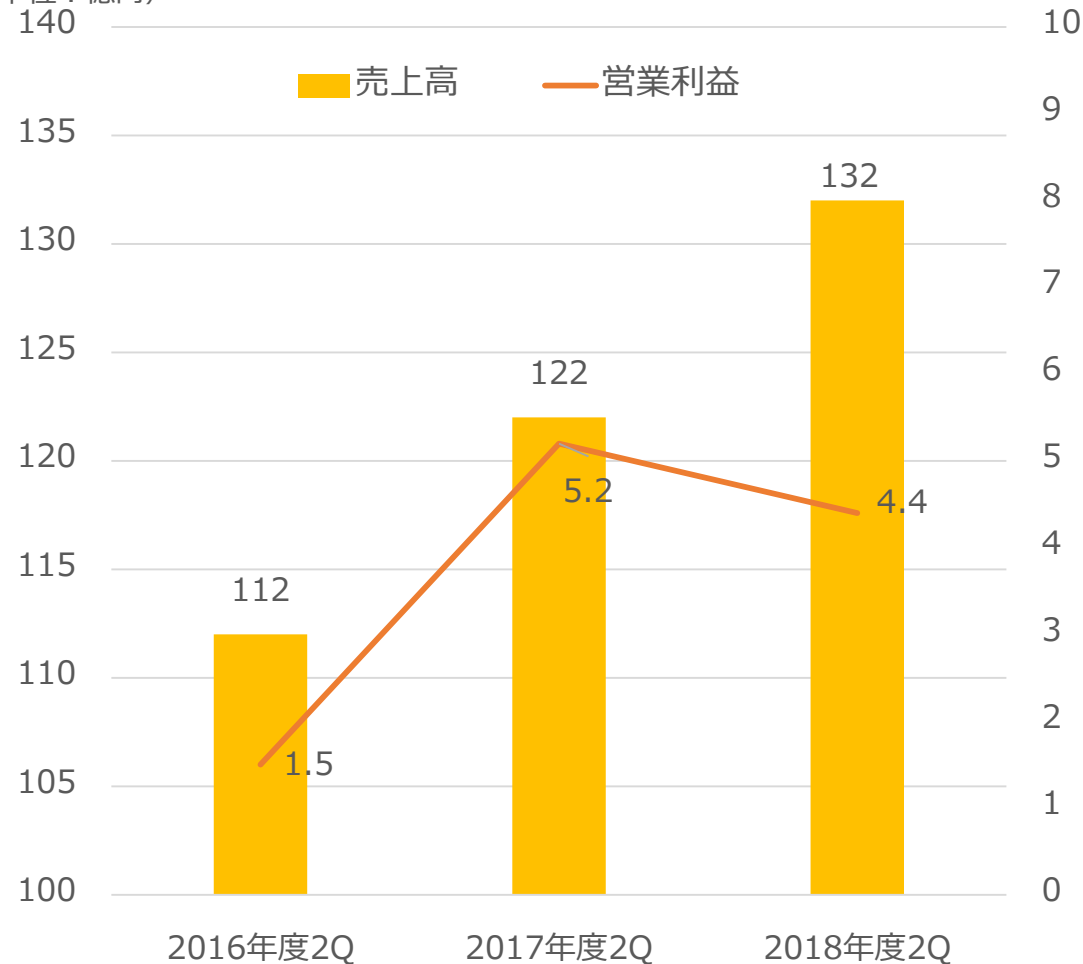
# 電線線材事業



- **特徴**：2つの主要事業領域がある。
  - ① **基盤領域**：建物・施設等やあらゆる汎用品に使われる電線・線材需要向け
  - ② **成長領域**：自動車等に使われる高品位・高機能線材（無酸素銅、銅銀合金等）
  
- 売上高は、成長領域が伸び前期比+36億円の402億円となった。基盤領域の価格競争が依然厳しく、営業利益では4.2億円減の7.5億円となった。
  
- ① **基盤領域**：建設向け需要は引き続き堅調であったが、営業利益は低下。  
 ② **成長領域**：成長分野である高機能線材は売上・利益ともに堅調に推移。

# 電力システム事業

(単位：億円)

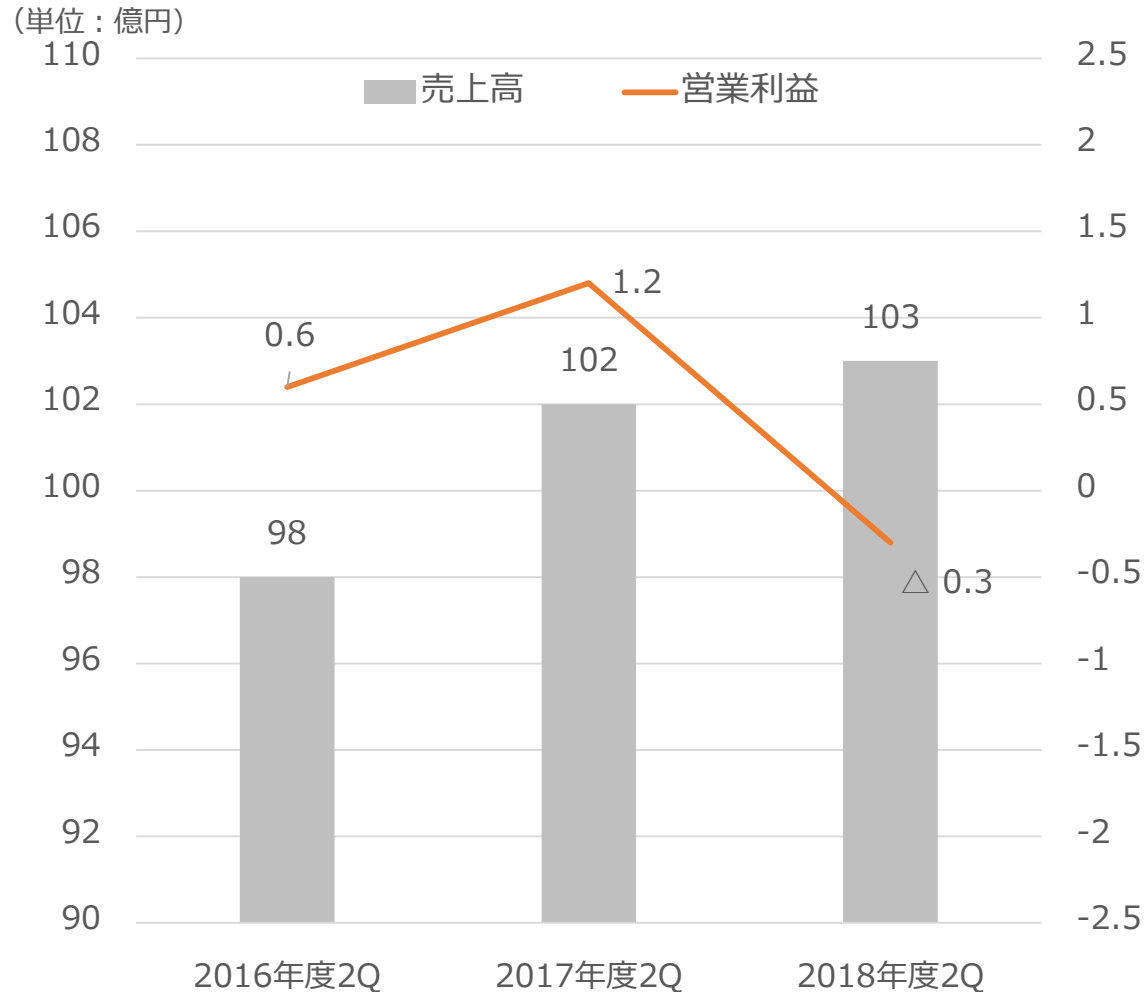


■ **特徴**：電力システム事業では、付加価値の高いケーブル接続部材を中心とした変電需要を取り込み、利益率向上へつなげてきている。現在、SICONEX®製品で培ったエポキシ技術を用いて耐震性・安全・環境にやさしく施工性に優れた製品を提供中。

■ 売上高は前期を上回り10億円の増収となったが、現在進めている海外改修工事で見込まれる追加費用を計上したことからの0.8億円減の4.4億円となった。

■ 電力会社向けの更新需要、民間事業会社向け更新需要は堅調に推移。

# 巻線事業



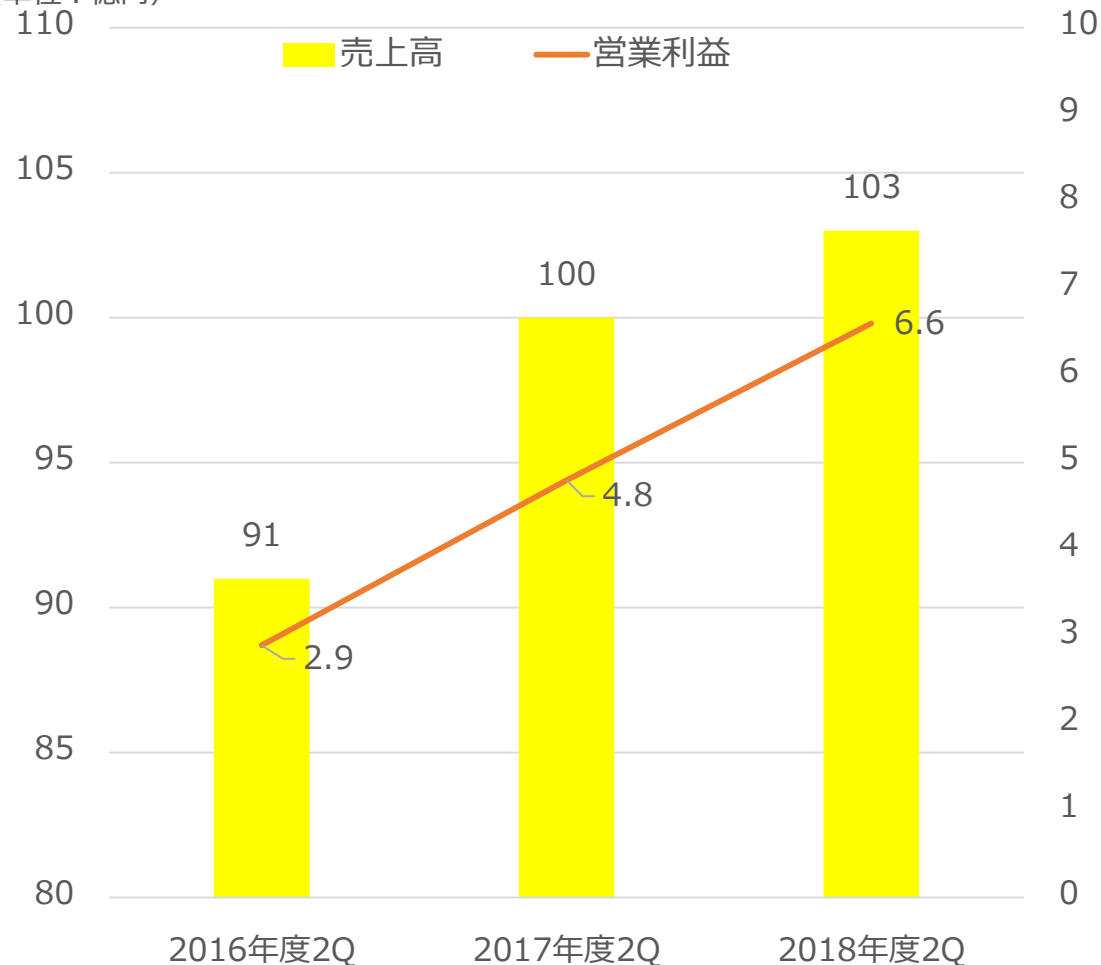
■ **特徴**：巻線は、あらゆる分野のモータ、コイルで使用されている。HEVやEV車に使用されるモータは高効率が要求される高性能な平角工ナメル線の量産を強化中。電子部品用に小型化、薄型化にむけた製品群を供給。

■ 売上高は銅価格の上昇により前期同様に確保したものの、数量減少と連結の範囲から除外した中国現地法人に対する債権について貸倒引当金を計上したことから、営業利益は1.5億円減の△0.3億円となった。

■ 重電向けは需要低迷したが、自動車向け電装品等が堅調に推移。

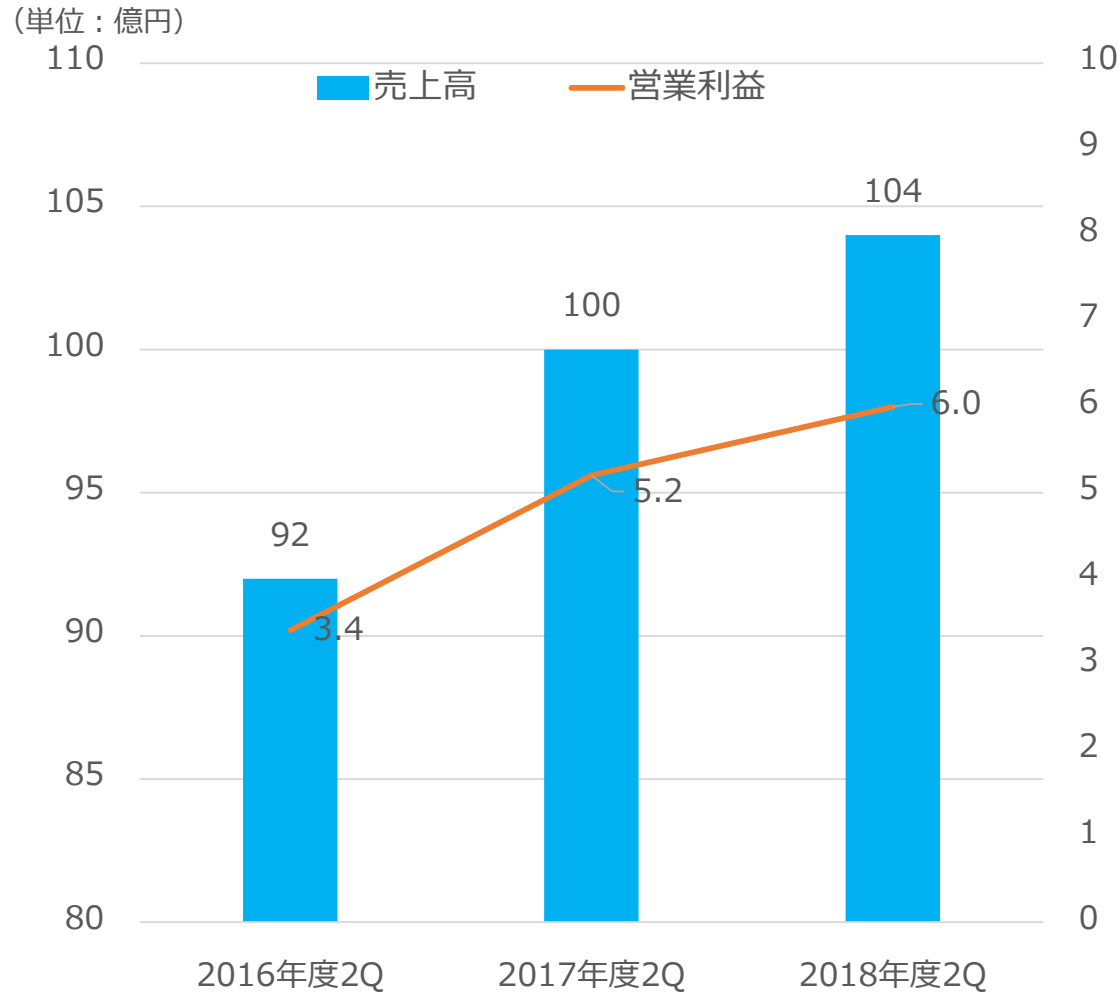
# コミュニケーションシステム事業

(単位：億円)



- **特徴**：通信システム事業では情報通信の光ファイバからメタルケーブル、電子ワイヤまで数多くの製品を取り扱っている。IoTの普及、FA化が急速に進められる中、産業オープンネットワークに対応した電子ワイヤ製品として、様々なケーブルの製造販売を実施。資本提携先である富通集団との協業による、中国市場での拡大を今後推進。
- 売上高は、前期比3億円増の103億円となり、営業利益も1.8億円増の6.6億円となった。
- 国内通信ケーブルの需要は微減するものの、高付加価値の付属品が増加。光ファイバーは海外向けを中心に拡大。

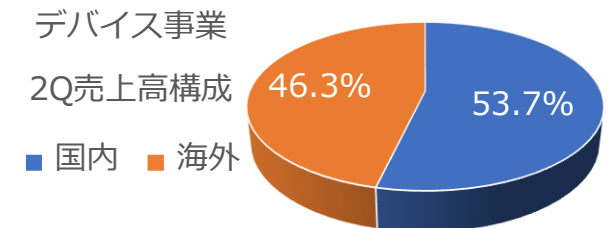
# デバイス事業



■ **特徴**：デバイス事業では、複写機用ローラやワイヤハーネスを製造・販売しており、特に発展する東南アジアでの需要が高く海外売上を押し上げている。免制震事業では、建築用免震部材を製造。豊富な製品のラインナップにより、国内2位のシェアを誇る。

■ 売上高は前期比4億円増の104億円、営業利益は0.8億円増の6億円となった。

■ 複写機用ローラ、ワイヤハーネスの海外需要は堅調。海外売上比率は、デバイス事業全体の46%を占める。





# 貸借対照表（前期末比較）

・自己資本比率は27.3%（前期末比0.7ポイントアップ）

単位：億円

	18/3/31※	18/9/30	増減
現金・預金	47	33	△14
受取手形・売掛金	397	415	+18
棚卸資産	219	223	+4
その他	46	45	△1
流動資産 計	709	716	+7
有形固定資産	396	394	△2
無形固定資産	15	12	△3
投資その他の資産	115	120	+5
固定資産 計	526	526	0
資産 合計	1,235	1,242	+7

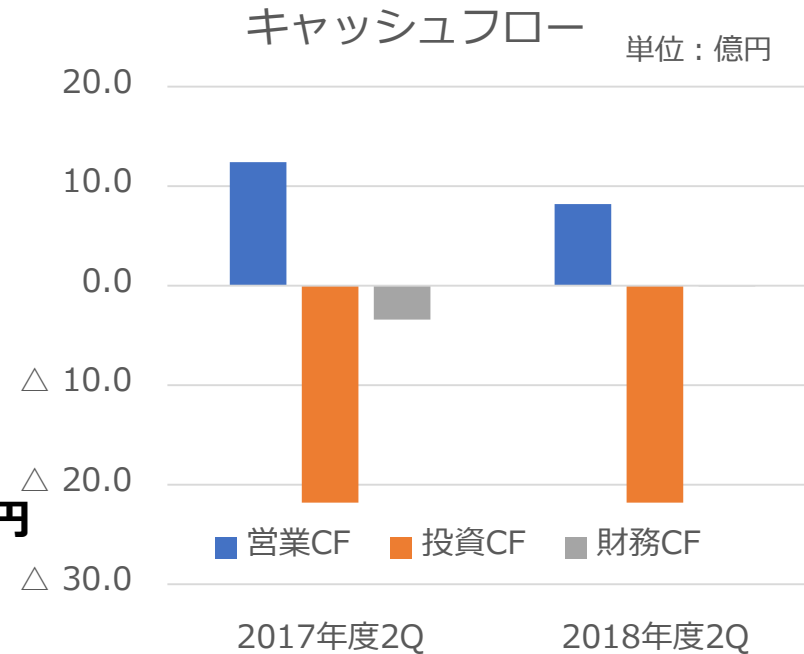
有利子負債 490⇒498億円 +8億円

	18/3/31※	18/9/30	増減
支払手形・買掛金	219	201	△18
短期借入金	344	370	+26
その他	136	142	+6
流動負債 計	699	713	+14
長期借入金	132	116	△16
その他	69	67	△2
固定負債 計	201	183	△18
負債 合計	900	896	△4
資本金	242	242	0
資本剰余金	55	55	0
利益剰余金	△35	△23	+12
その他	73	72	△1
純資産 合計	335	346	+11
負債・純資産 合計	1,235	1,242	+7

※会計制度変更により組替を行っています。

# 投資計画（設備・海外投資） & CF

2016年度 実績	投資額	国内・海外 29億円	新規 3億円	合計 32億円
	償却費	29億円		
2017年度 実績	投資額	国内・海外 30億円	新規 4億円	合計 34億円
	償却費	29億円		
2018年度 予想	投資額	国内・海外 32億円	新規 4億円	合計 36億円
	償却費	32億円		



**2Qの投資実績**  
**19.2億円**  
 国内 12.4億円  
 海外 6.8億円

## 《 2018年度の主な投資計画 》

【国内・海外】設備更新、合理化・省力化

【新規】新事業向け設備投資

# SWCCの拠点網

## 国内拠点

### ■主な営業拠点

神奈川 大阪 名古屋 札幌 仙台 広島 福岡

### ■主な製造拠点

青森県青森市 宮城県柴田郡 宮城県亶理郡 山形県酒田市 茨城県古河市 東京都大田区 神奈川県相模原市  
神奈川県海老名市 神奈川県伊勢原市 山梨県南アルプス市 愛知県豊川市 三重県いなべ市 岡山県赤磐市



相模原事業所(神奈川県相模原市)



三重事業所(三重県いなべ市)



仙台事業所(宮城県柴田郡)



海老名工場(神奈川県海老名市)



愛知工場(愛知県豊川市)



古河工場(茨城県古河市)

## 海外拠点

### ■主な営業拠点

上海 香港 台北 シンガポール

### ■主な製造拠点

中国天津市 中国山東省新泰市 中国浙江省嘉興市 中国浙江省杭州富陽地区 中国福建省福清市  
中国広東省東莞市 ベトナムハノイ市



嘉興昭和機電有限公司  
(中国浙江省嘉興市)



福清昭和精密電子有限公司  
(中国福建省福清市)



特変電工昭和(山東)電纜附件有限公司  
(中国山東省新泰市)



富通昭和線纜(杭州)有限公司  
(中国浙江省杭州富陽地区)



SWCC SHOWA(VIETNAM)CO., LTD.  
(ベトナム ハノイ市)



SWCCDAIJI VIETNAM INTERCONNECT  
PRODUCTS CO.,LTD.  
(ベトナム ハノイ市)

# 2019/3期 通期業績予想

- 7月31日開示の通期業績予想（上方修正）と変更なし

(単位：億円)	2017年度 実績	構成 %	2018年度 計画	構成 %	前期比 %
売上高	1,681	-	1,750	-	+4.1%
売上総利益	216.4	12.9%	-	-	-
営業利益	62.7	3.7%	54	3.1%	△14.0%
経常利益	48.9	2.9%	45	2.6%	△8.0%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	37.3	2.2%	33	1.9%	△11.7%

# 2019/3期 セグメント予想

(単位：億円)	2017年度 実績		2018年度 計画		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
電線線材	781	22.6	835	15.3	+54	△7.3
電力システム	263	17.5	270	15.9	+7	△1.6
巻線	212	2.4	209	1.5	△3	△0.9
コミュニケーション システム	208	13.8	222	15.8	+14	+2.0
デバイス	202	11.3	197	10.6	△5	△0.7
その他	15	△4.9	17	△5.1	+2	△0.2
合 計	1,681	62.7	1,750	54.0	+69	△8.7



SWCCグループ

中期経営計画

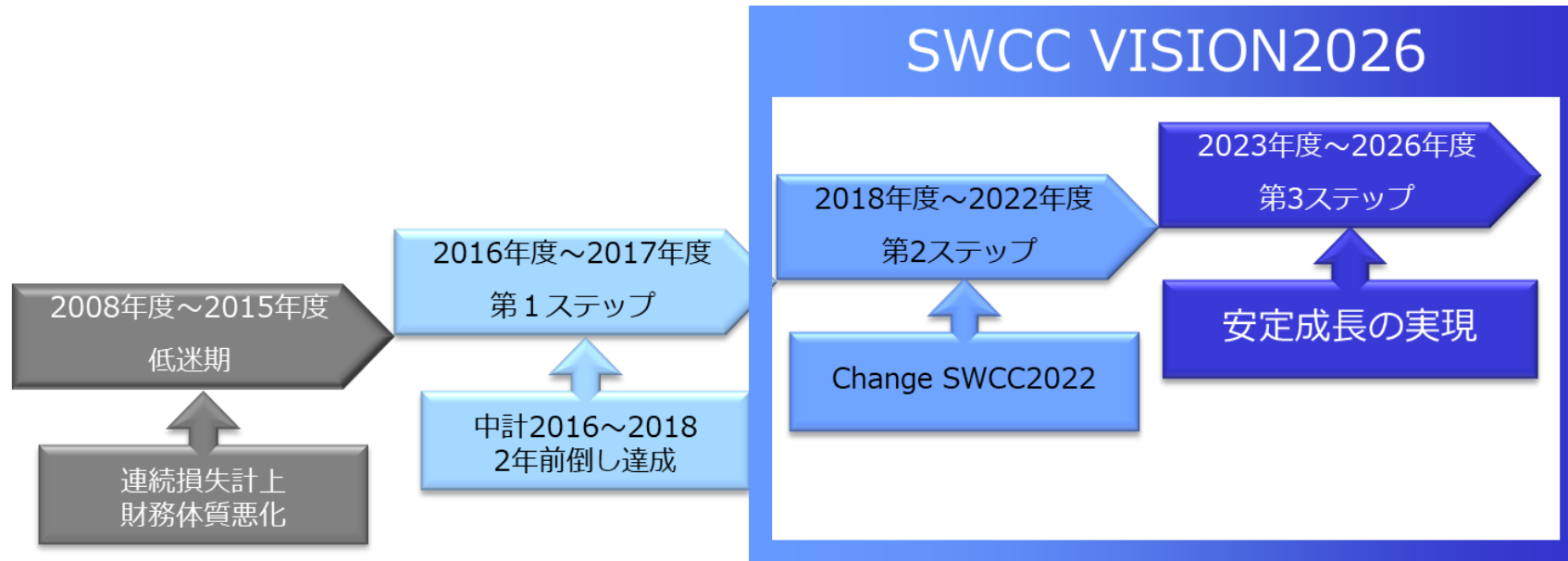


Creating for the Future

昭和電線ホールディングス（株）  
（東証1部：5805）

<http://www.swcc.co.jp/>

# ビジョン「SWCC VISION2026」 中期経営計画「Change SWCC2022」



「環境に応じて変化し企業価値を最大化できる企業」

第1ステップ（2016年度～2017年度）  
中計2016～2018【構造改革・信頼回復と既存事業の足固め】

第2ステップ（2018年度～2022年度）  
Change SWCC2022【構造改革・成長戦略】

社会的使命の実践  
と  
安定成長の両立

# SWCC VISION 2026

---

**ミッション（存在意義：何を目的とするか）**

**「社会に必要とされ、  
生活を支えるソリューションを提供する」**

**バリュー**

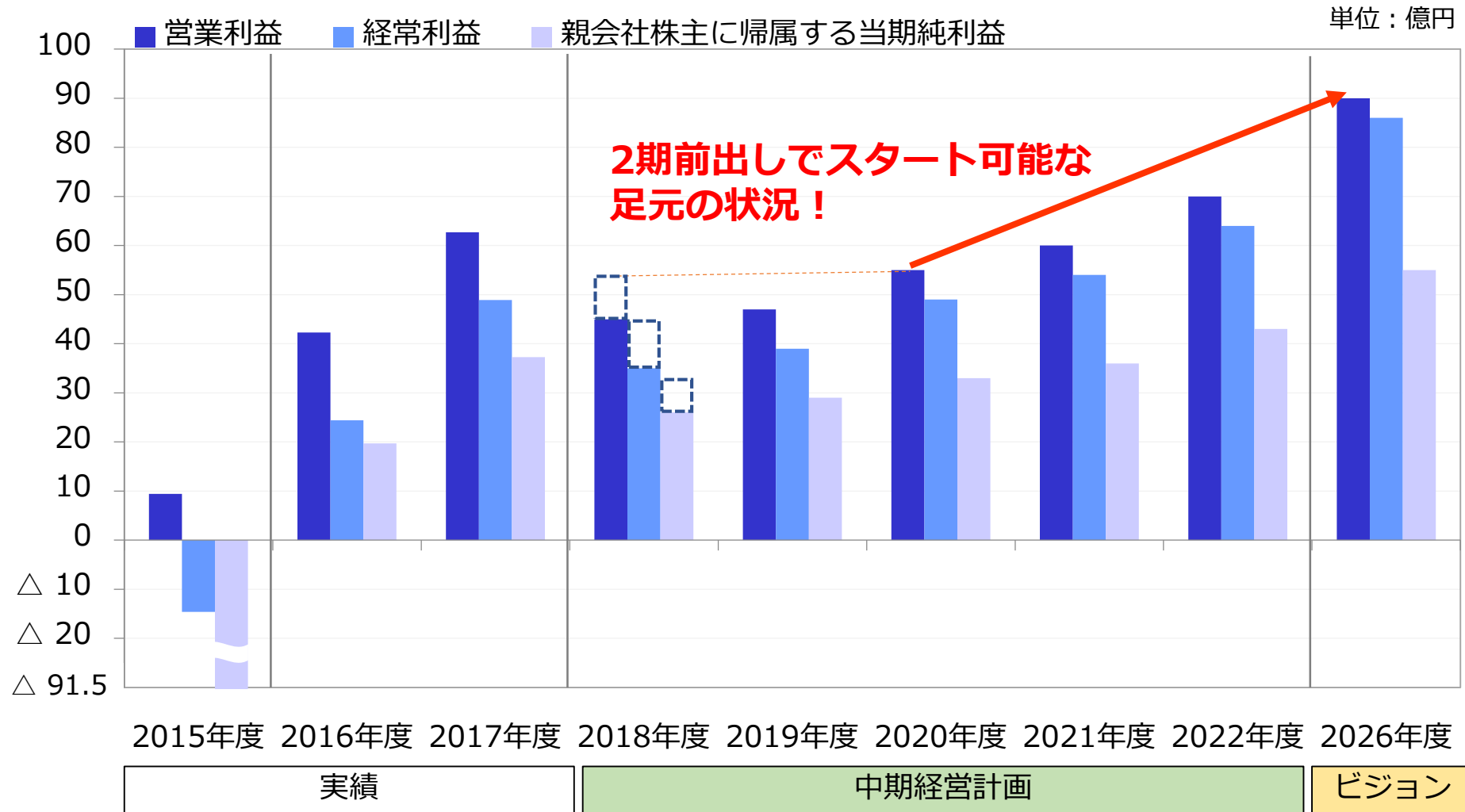
**（従業員の価値観：ミッションの実現のための姿勢、心掛け）**

**【迅速】 ・ 【情熱】 ・ 【考動】**

**によって、お客様のニーズを掘り起こす**



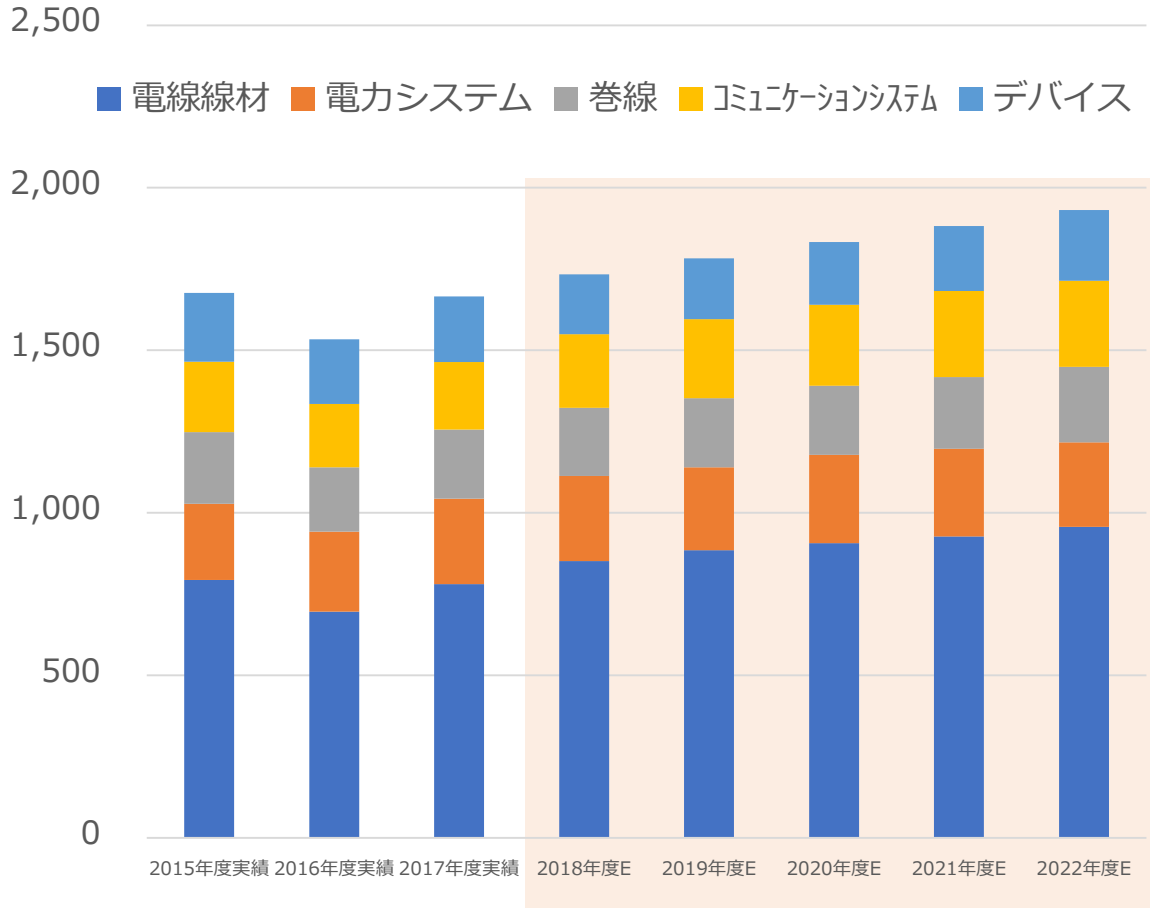
# 中期経営計画：収益計画



# 中期経営計画：セグメント売上/営業利益計画

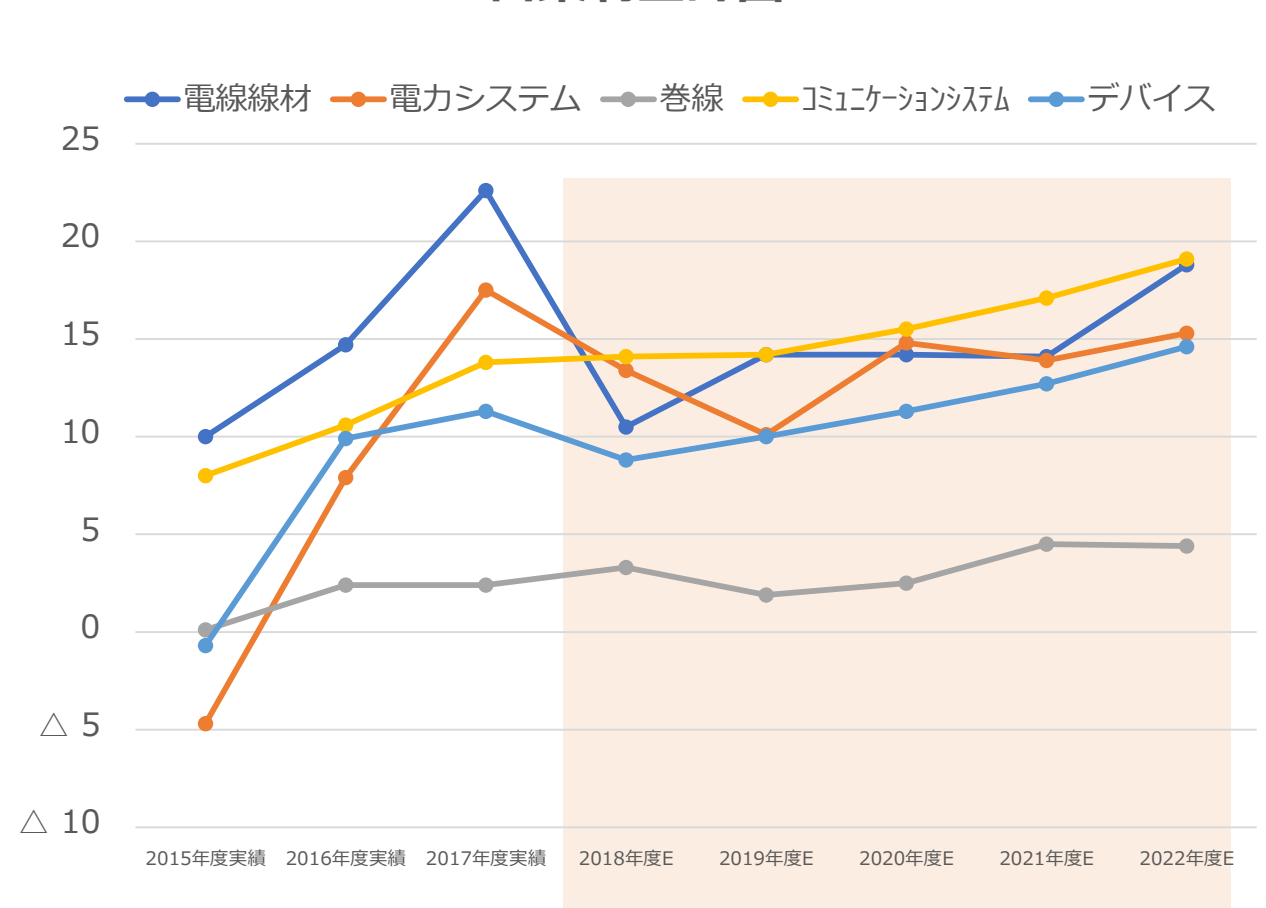
単位：億円

## 売上高計画



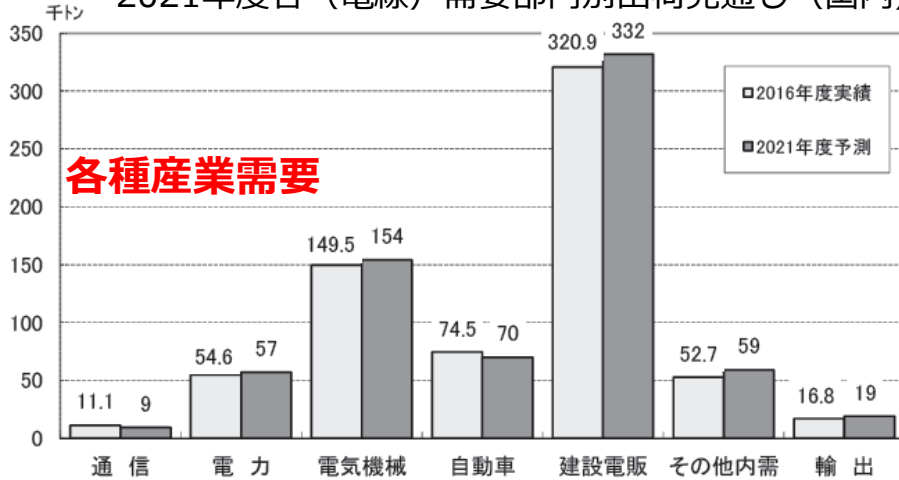
単位：億円

## 営業利益計画



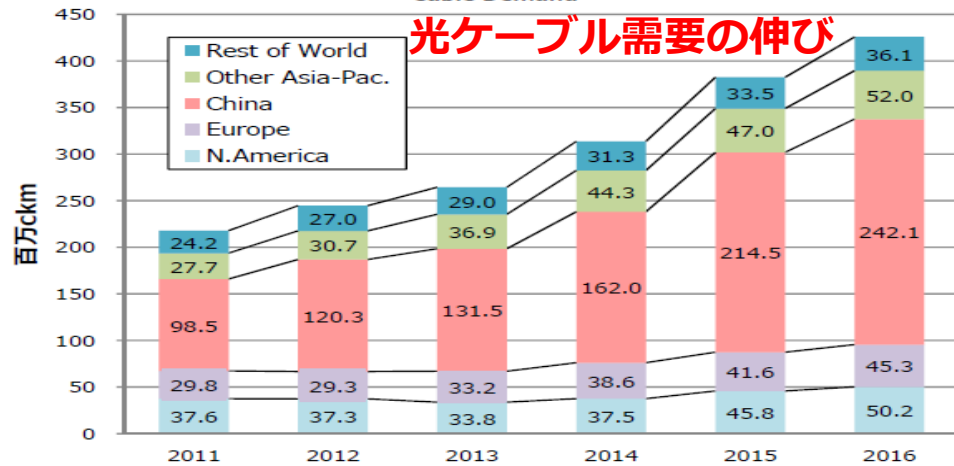
# 電線・ケーブル関連の需用予測

2021年度各（電線）需要部門別出荷見通し（国内）



出所：電線時報「2017年度電線需要見通し改訂および2021年度中期電線需要見通し」

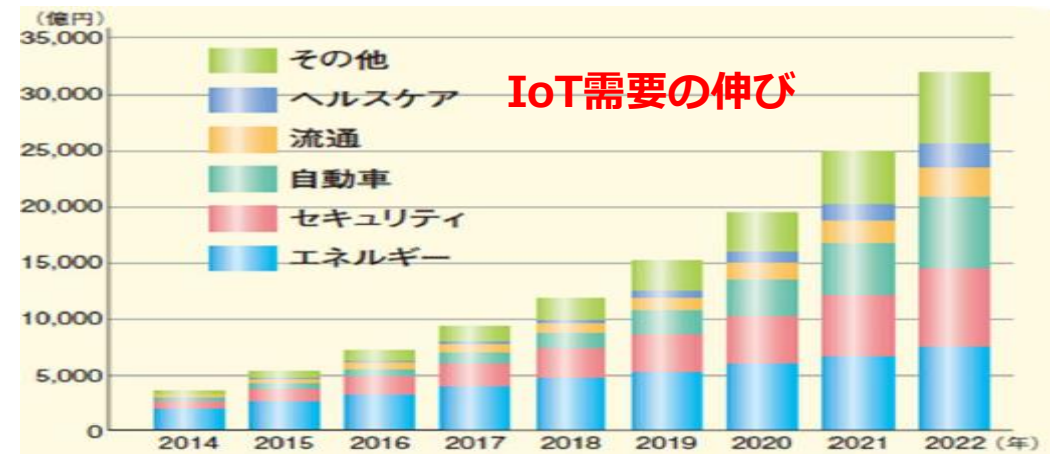
Cable Demand



出所：CRU Monitor Optical Fibre and Cableより作成



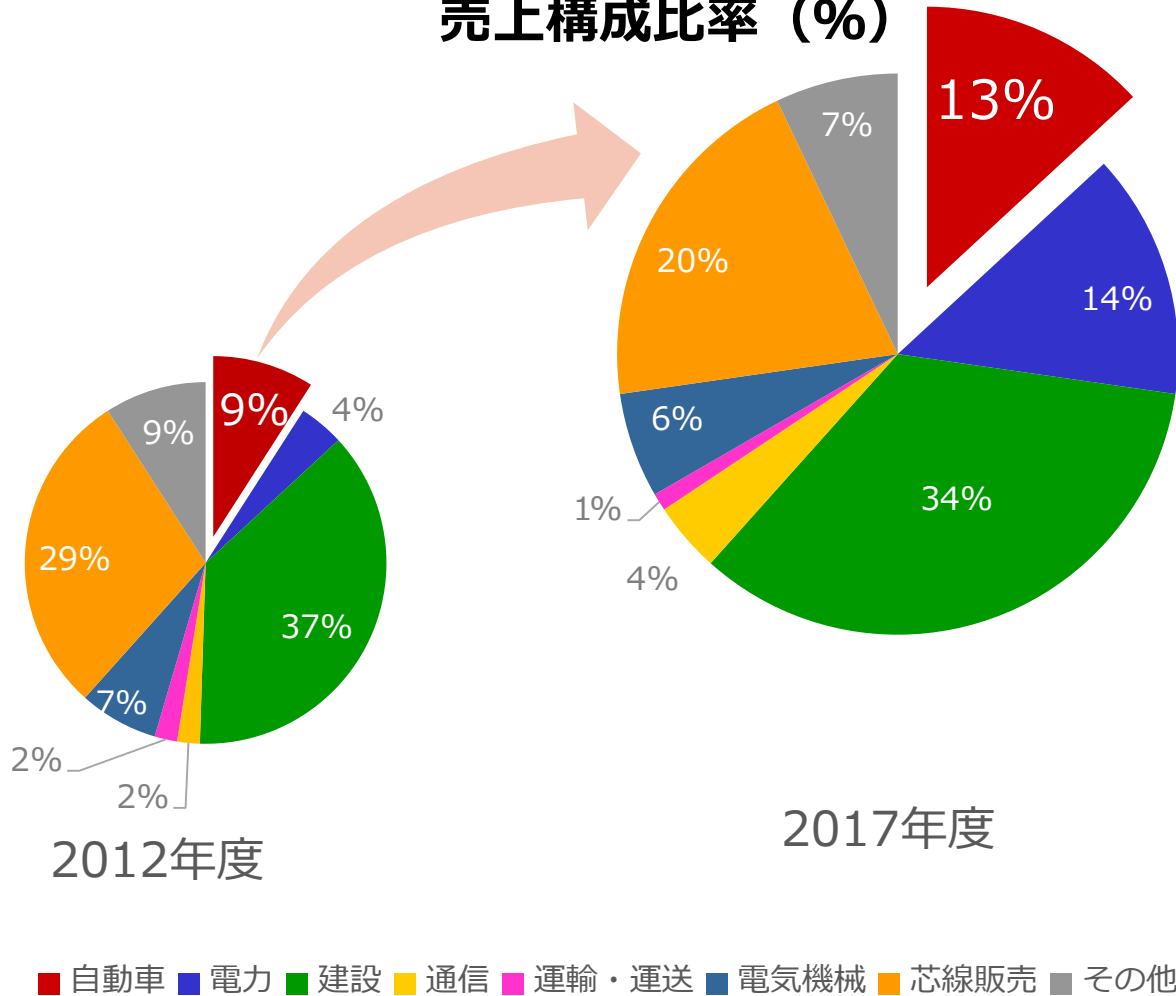
出所：富士経済「HV、PHV、EVの世界市場を調査」



出所：2017 Nomura Research Institute  
「IoT市場の拡大と日本におけるIoT活用のありかた」

# 売上高構成比率（需要部門別 主要会社）

売上構成比率（%）

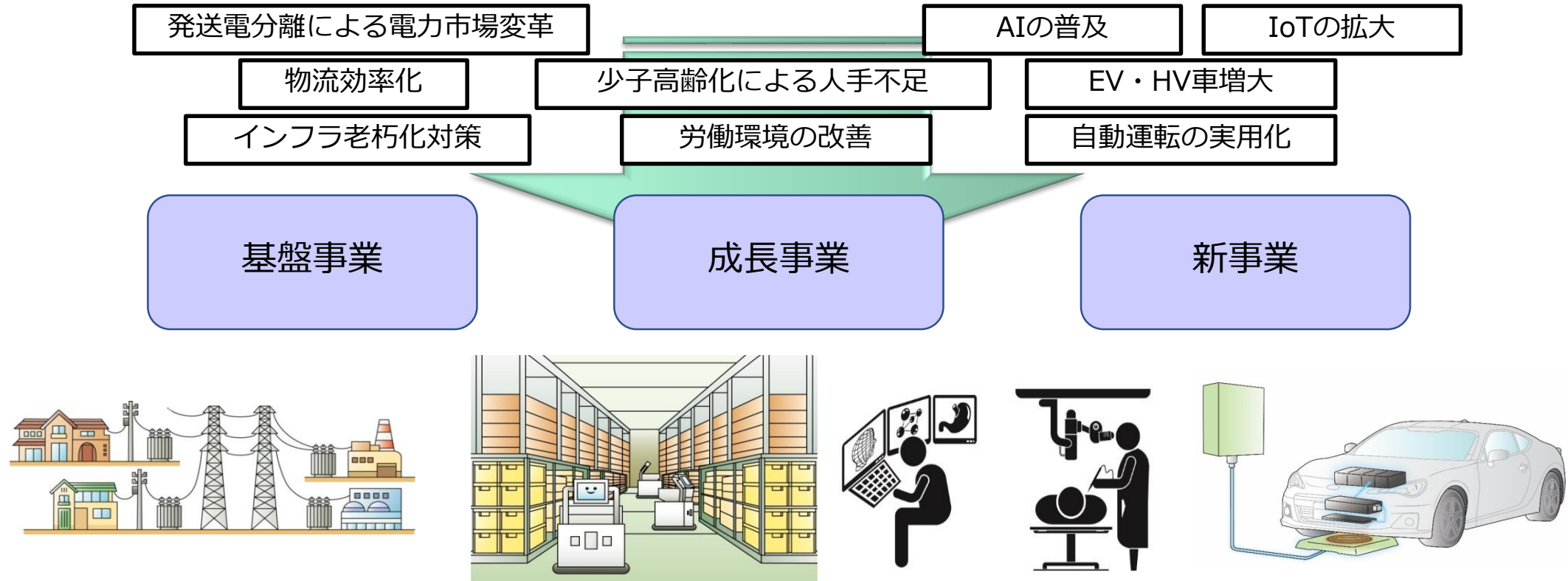


- 自動車は、**EV化進展**による需要取り込み
- 電力向けは、**再生可能エネルギー**への取り組み推進により、成長分野の需要取り込み
- 建設向けは、今後も**再開発・ビル更新需要**から安定的な需要取り込み
- 運輸・運送は、**鉄道分野**のICT化、省エネ・環境対応、自然災害対応で需要取り込み
- 電気機械は、**IoT化、FA&ロボット化、医療向け**による新たな需要取り込み
- 芯線販売は、同業ニーズに対応
- その他は、物流会社向けや、超電導を含む研究開発を推進

# 外部環境認識：持続的な成長に向けた事業活動

世界の動き：キーワード **インフラ更新、第4次産業革命、再生可能エネルギー**

1. COP21で地球温暖化対策の国際ルールである「パリ協定」を採択
2. 国連で「持続可能な開発目標（SDGs）」を採択



# 中期経営計画2022基本方針

## 構造改革の継続事項

1. グループ体制最適化
2. 中長期的な需要動向に基づく  
生産拠点再編
3. 低収益、不採算事業の改革
4. 海外事業の早期立て直し

## 中計2022基本方針

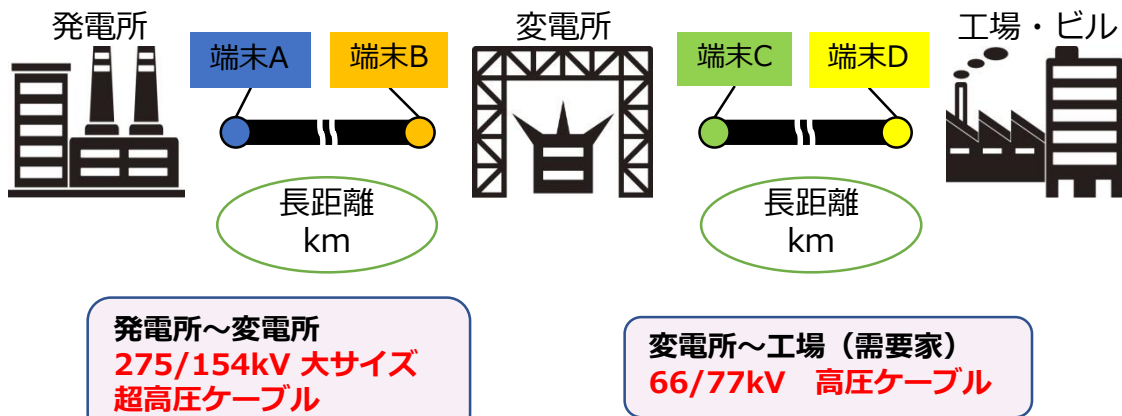
1. 事業収益力強化
2. 新事業の創出
3. 海外事業の新展開

# 中期経営計画2022：事業収益力強化

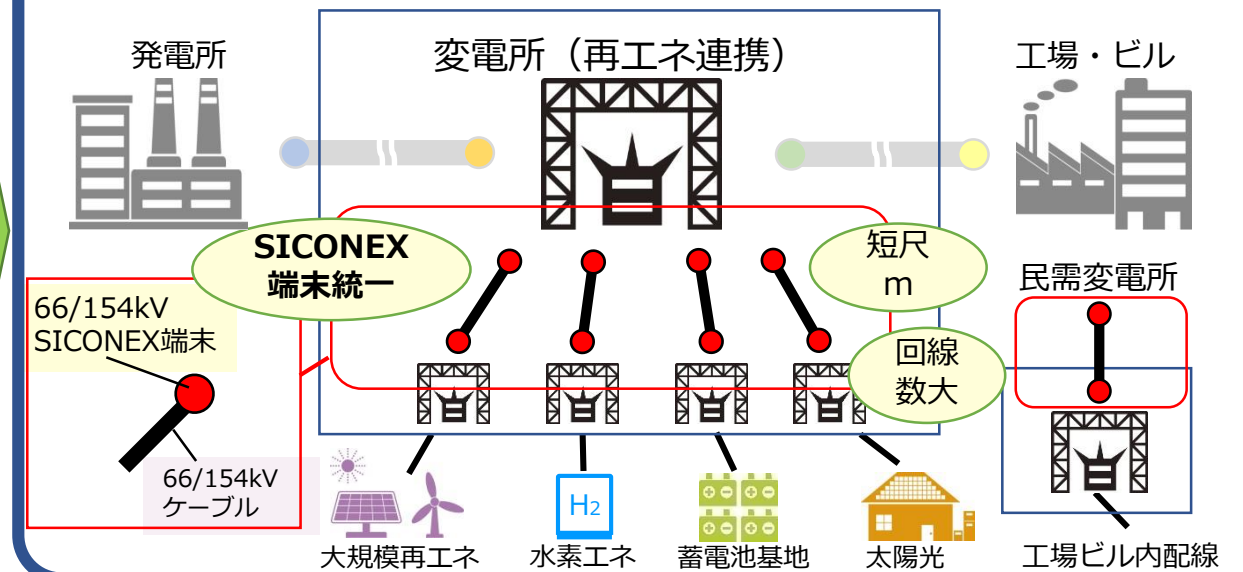
- **パラダイムシフトによる電力市場環境の急速な変化。** 電源分散化により、長距離超高圧ケーブルの需要は今後伸びない。一方、再生可能エネルギー連携増加により変電所内の機器増設のための高圧ケーブル接続が増加。**線路長さは短いが回線数と端末数が増加し、SICONEX®端末に統一化をはかることで、省力化・工期短縮が実現可能で、収益力強化を狙う。**

## ● 従来タイプ 超高圧 長距離ネットワークの建設・整備

- ・ 発電所～変電所～需要家のネットワーク長距離線路の大型案件整備
- ・ 端末は両サイド2カ所のみ プロジェクトは**ケーブル（銅量）が主体**

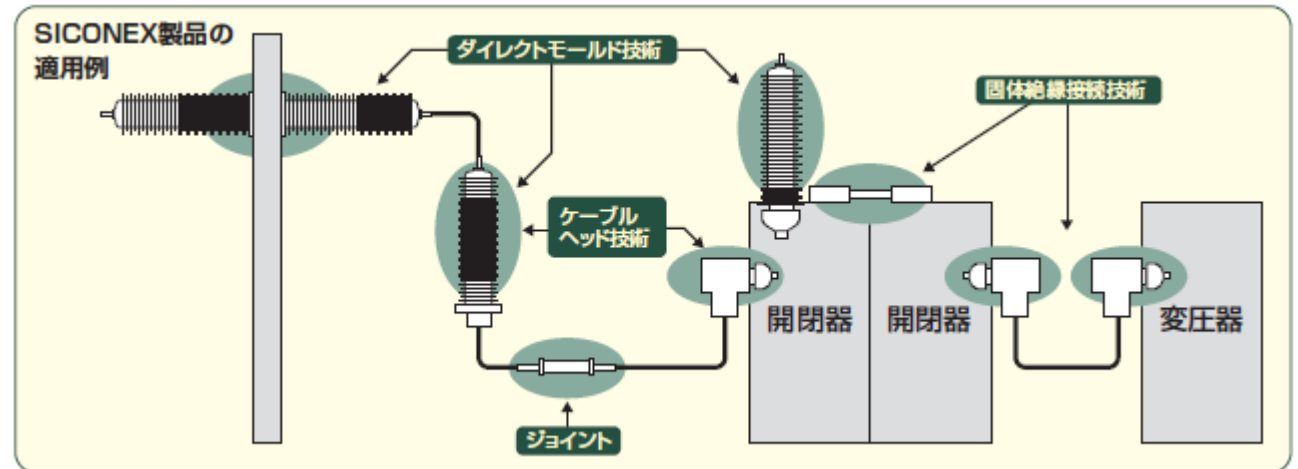


## ● 分散化電源の連携変電所の新設・増設 増加



# SWCCのケーブルシステム：「SICONEX®」

- 電力機器部品である「SICONEX®」は、小型化により軽量化、省スペース、部品低減により工事の省力化、工期短縮が可能。



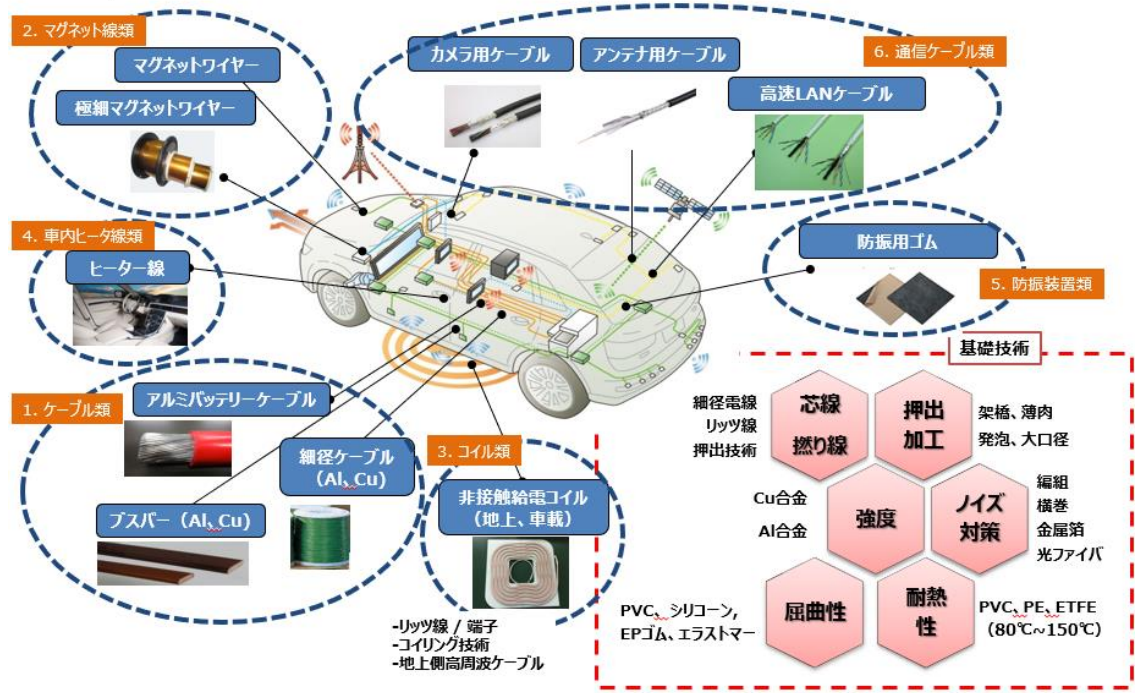


# 中期経営計画2022：新事業の創出

～新事業創出をするため、グループ経営資源を結集すると並行し、オープンイノベーション、技術の協業・買収、M&Aによる事業領域の拡大～

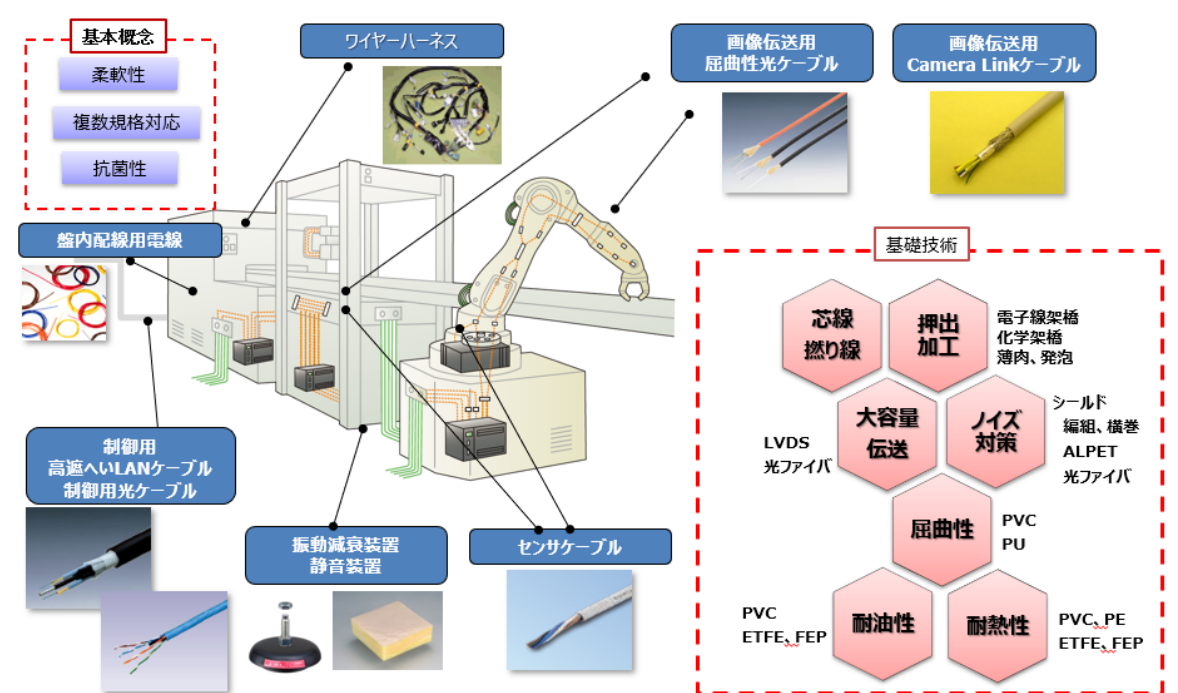
## ①EV・車載関連、②FA関連、③医療関連

### 車載用基礎技術



Copyright © 2018 昭和電線ホールディングス株式会社

### FAの為の基礎技術



Copyright © 2018 昭和電線ホールディングス株式会社

# SWCCの「無酸素銅」

- 日本で唯一の製造方法「**ディップフォーミングシステム**」による銅純度99.99%の高伝導率で加工に優れた無酸素銅
- 電線・ケーブルのみならず、自動車用構成部品まで用途多様

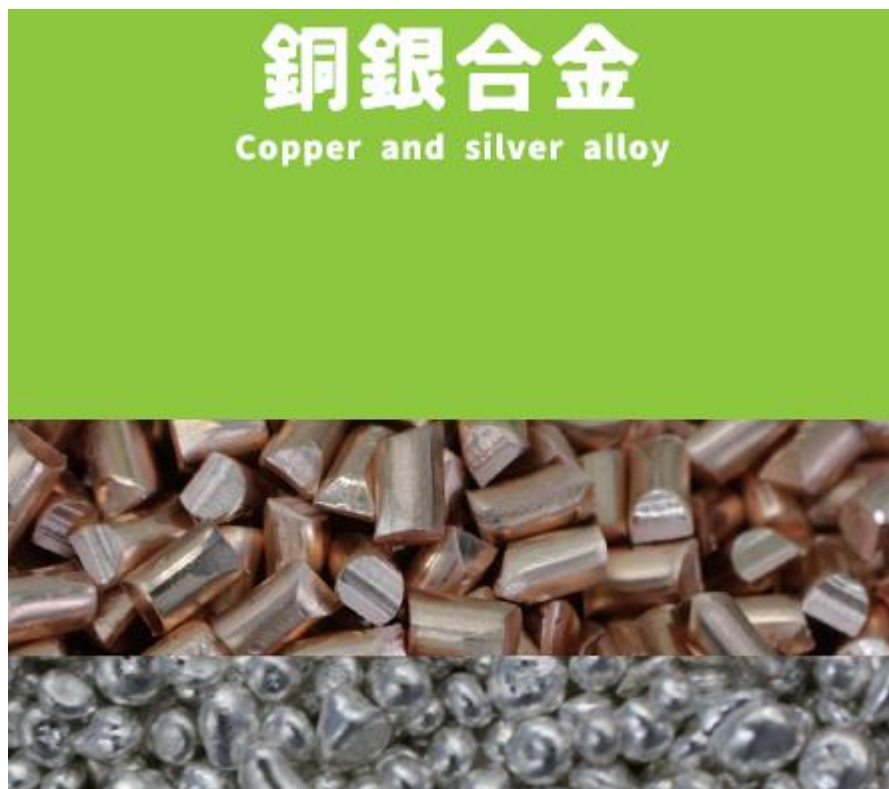


【一般的なタフピッチ銅とMIDIPの比較表】

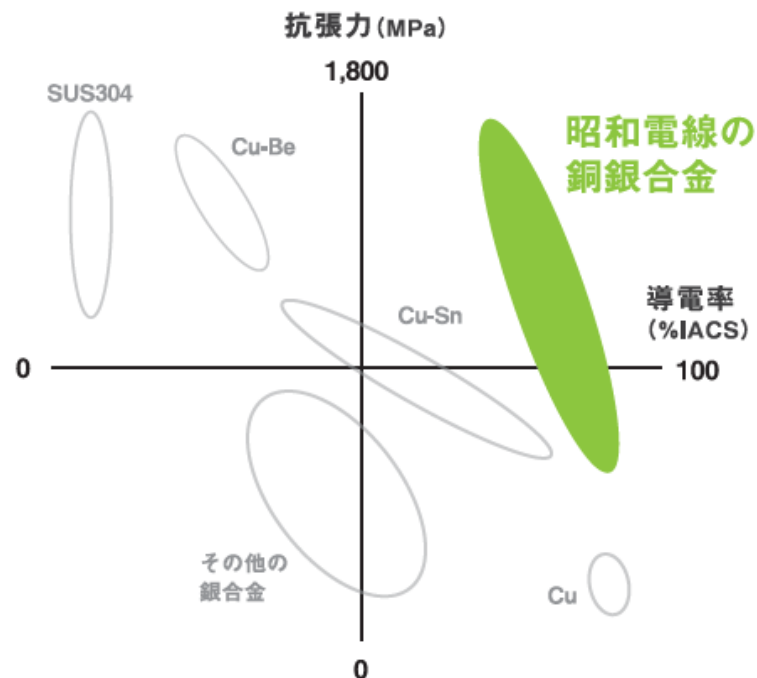
	タフピッチ銅	MIDIP OFC
水素脆化前の組織	銅酸化物が多い (黒い部分が銅酸化物)	銅酸化物が少ない
水素脆化後の組織	結晶粒界に気泡と隙間が生じている	気泡および隙間がない
曲げ試験	水素脆化後の曲げにより結晶粒界から割れが生じやすい	水素脆化後も曲げによる割れが生じにくい

# SWCCの「銅銀合金」

- 高強度と高電動率のバランスと、耐屈曲性・極細可能の加工性
- 自動車、医療用、半導体、FA・産業用ロボット等、用途多様



【高強度と高導電率のバランスチャート】



# 新技術開発への取り組み

## ・超電導ケーブルシステムの開発

- 再生可能エネルギーへの転換が世界的に求められる中での、効率伝送ケーブルシステム開発。日本では全発電量の約5%が電気抵抗により消失。
- 当社は富通集団と共同で中国の天津地区に超電導ケーブルを敷設。イットリウム系超電導線材を使用し、国際大電力システム会議（CIGRE）の型式試験に合格。超電導送電技術の実用化を進め、送電線の電気抵抗で熱として失われていた電気エネルギーの有効利用を図ります。



天津で稼働中の超電導ケーブルと終端

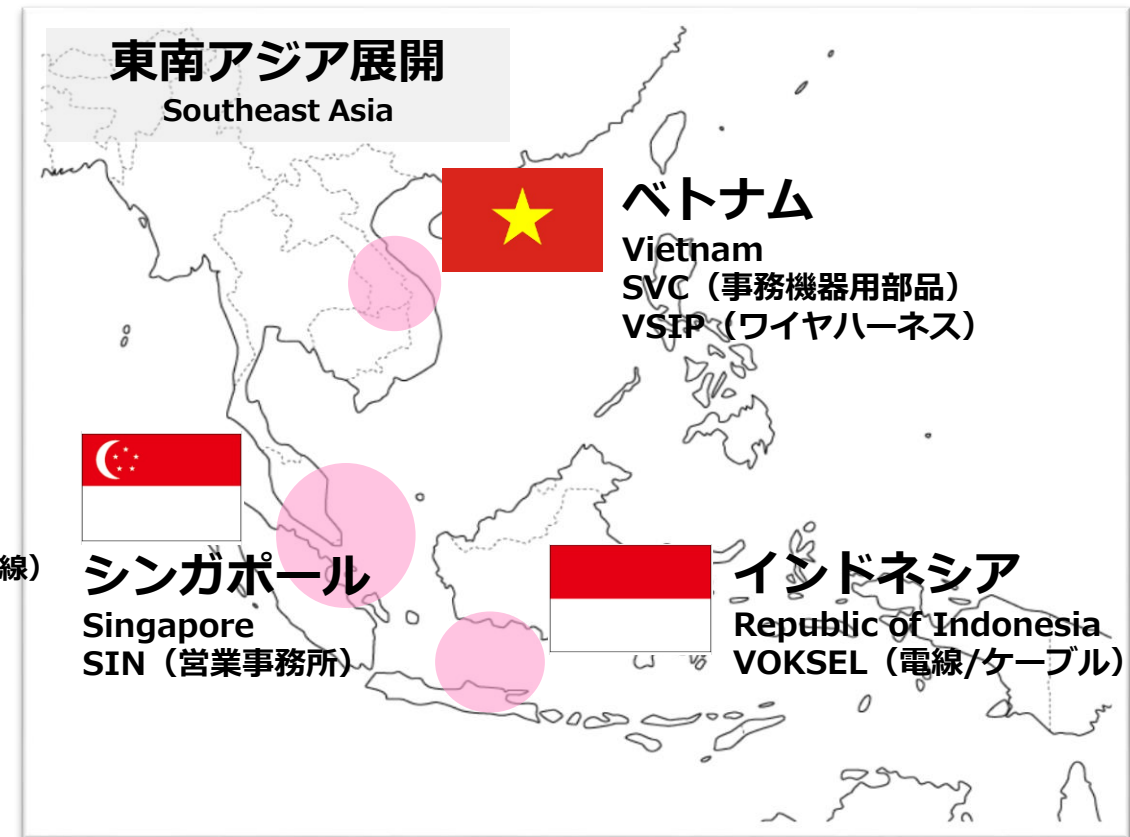
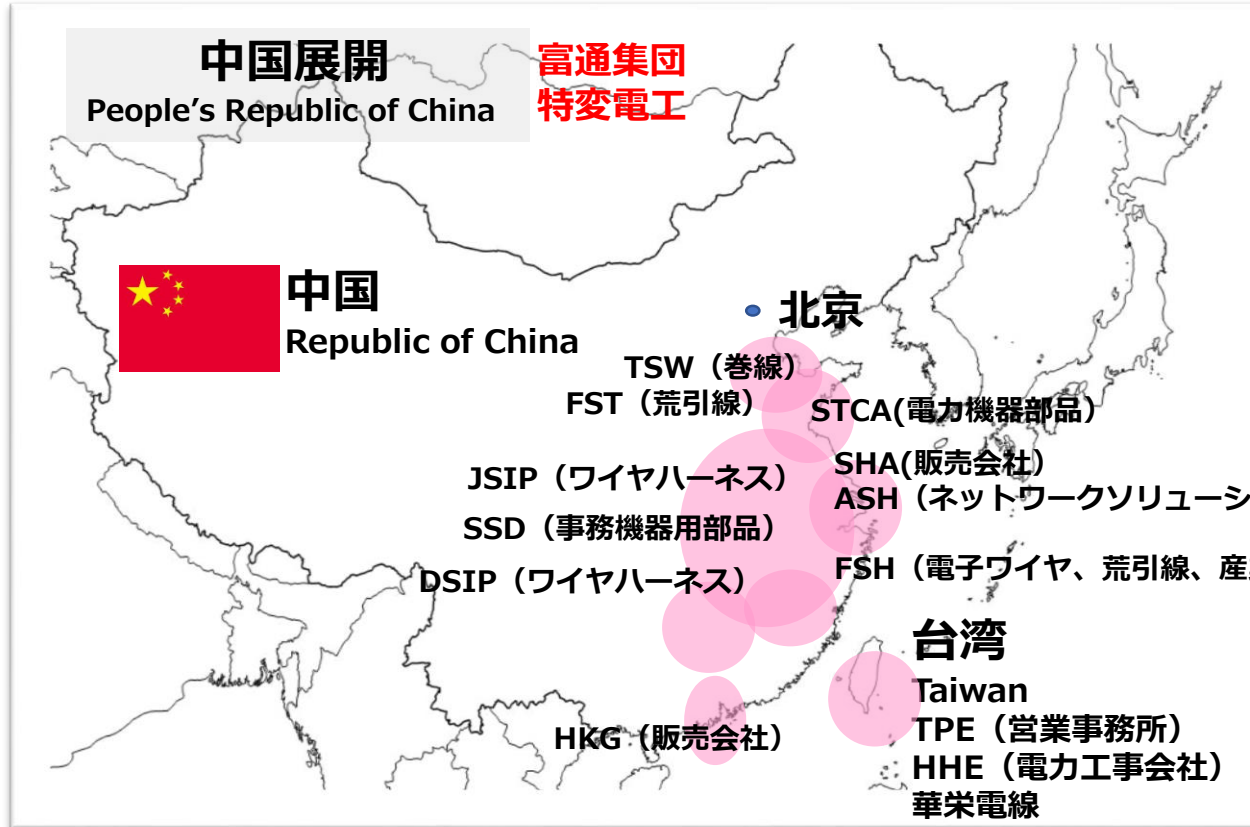


35kV超イットリウム系超電導ケーブル

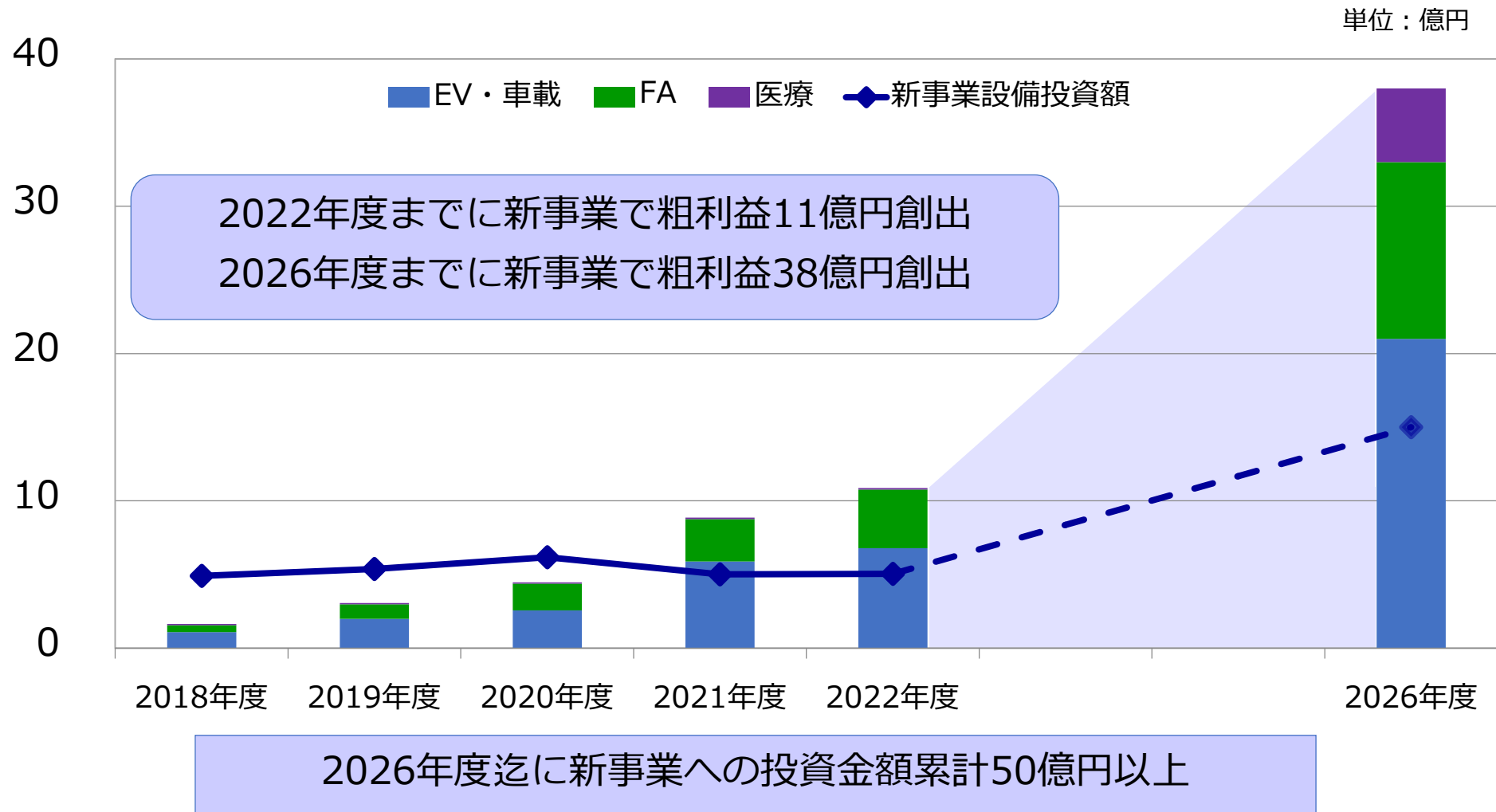
# 中期経営計画2022：海外事業の展開

## ・海外パートナーとの関係維持と強化（東南アジアへの展開）

～日系企業以外のローカル企業への取引深耕を推進～



# 新事業利益目標と設備投資額



# 2026年度の係数目標：KPI

単位：億円

	2015年度 実績	2017年度 実績	2022年度 中期経営計画	VISION 2026
売上高	1,697	1,681	1,950	1,950
営業利益	9.4	62.7	70.0	90.0
経常利益	△14.6	48.9	64.0	86.0
親会社株主に帰属する 当期純利益	△91.5	37.3	43.0	55.0
営業利益率	0.6%	3.7%	3.6%	4.6%
配当/配当性向	—	5円 (4.0%)	20円以上 (約20%)	50円以上 (約30%)
有利子負債	575	490	400以下	300以下
DEレシオ※	227%	149%	90%以下	50%以下
純資産	257	334	470以上	600以上
自己資本比率	20.6%	26.5%	35%以上	40%以上

※DEレシオは自己資本で算出

# ESGへの取り組み：2018年CSR報告書



昭和電線グループ  
CSR報告書 2018  
SWCC GROUP CSR REPORT 2018



昭和電線ホールディングス株式会社

<http://www.swcc.co.jp/environment/report/pdf/2018/csr1800.pdf>

- 当社グループは2026年に創立90周年の節目を迎えます。その節目を迎える際の「ありたい姿」について「**環境に応じて変化し、企業価値を最大化できる企業**」を掲げ、社会的使命の実践と安定成長の両立に向け取り組んでおります。

E

- 社業を通じて、環境保護と社会の持続的な発展に貢献
- CO<sub>2</sub>の削減、VOC削減
- 資源の有効利用
- 環境配慮型製品開発と製品化の促進
- 生物多様性の取り組み

S

- 安全・衛生活動の推進
- 品質マネジメント有効性の持続的改善
- 従業員のワークライフバランスの取り組み推進と働きやすい環境づくり
- ステークホルダーとの良好なコミュニケーションの維持向上

G

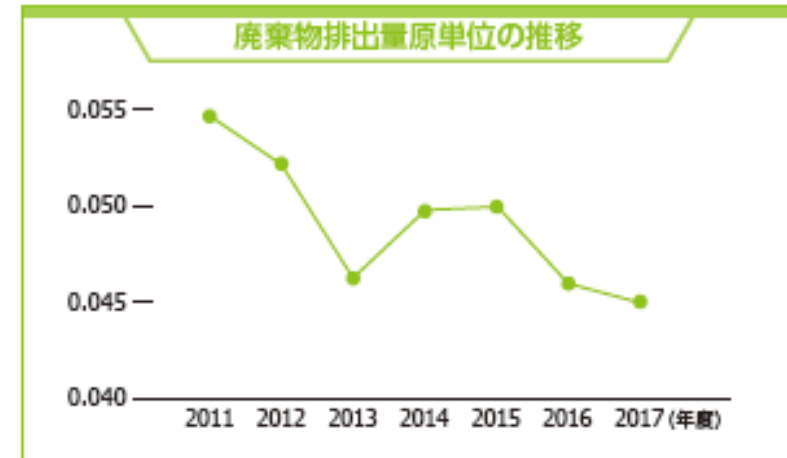
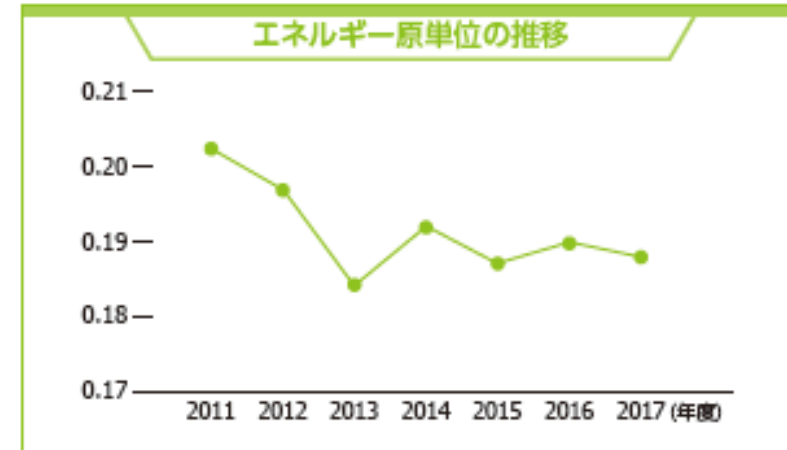
- コンプライアンスの徹底
- サイバーセキュリティ対策の強化
- 事業活動の重要なリスクの管理と低減
- 情報公開による透明性の向上



# 2017年度環境保全活動の結果

- 2017年度は、下表に示す通りゼロエミッションの推進を除き目標を達成することができました。

活動項目	2017年度目標	実績	評価
省エネルギー(CO <sub>2</sub> 削減)	エネルギー原単位を基準値*1から2%以上削減する。	2.1%	○
	省エネ改善施策により、エネルギー消費量を基準値*1の1.3%以上削減する。	1.5%	○
廃棄物の排出量削減	排出量原単位を基準値*1から2%以上削減する。	4.9%	○
ゼロエミッションの推進	全製造拠点(10拠点)でゼロエミッションを維持する。(廃棄物最終処分率を排出量の0.5%以下にする。)	2拠点未達成	×
化学物質の管理強化	VOC大気排出量を基準値*1から7.2%以上削減する。	27.2%	○
環境貢献製品の拡大	環境貢献製品の新規登録件数12件以上。	12件	○
生物多様性の保全	生物多様性ガイドラインを展開した取り組みを推進する。	取り組みを実施	○



# 事業活動を通じた社会的使命の実践に向けて

1. 事業活動を通じて社会的使命を果たし、持続的な社会の発展に貢献する
2. 環境に配慮した製品開発活動を通じ、安心安全な社会を支える
3. 法令を遵守し、すべてのステークホルダーとの良好な関係を築く



## 世の中の動き

気候変動抑制に向けて世界の国際的取り組み（パリ協定）

持続可能な開発目標の設定（国連SDGsへの取り組み）

ESGを企業評価、投資判断に利用

働き方改革のもとでの労働環境の改善

## 当社の事業活動

[インフラ・デバイス事業]  
 電力ケーブル、部品、工事  
 建設電販用ケーブル  
 通信用ケーブル／光ファイバ  
 免制震部材・システム  
 複写機用部品  
 家電、産業機器用ハーネス  
 ITソリューション

[新事業]  
 高機能無酸素銅、車載用ヒーター線  
 車載用電線、車載／電子部材用巻線  
 医療用特殊電線、複合ケーブル

## 環境・社会への貢献

[事業活動を通じて  
 環境と社会の持続的な発展に貢献]  
 ・CO2の削減、VOC削減  
 ・資源の有効利用  
 ・環境配慮型製品開発と製品化の促進  
 ・生物多様性の取り組み  
 ・安全・衛生活動の推進  
 ・社員のワークライフバランスの  
 取り組み推進と働きやすい環境づくり  
 ・ステークホルダーとの良好な  
 コミュニケーションの維持向上

## ガバナンス

- ・コンプライアンスの徹底
- ・サイバーセキュリティ対策の強化
- ・事業活動の重要なリスクの管理と低減
- ・情報公開による透明性の向上 等

# SDGsへの取り組み



2015年9月、国連サミットにおいて「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が全会一致で採択されました。このアジェンダは、17の目標と169のターゲットから構成されています。この目標は、企業だけではなく、先進国も発展途上国も、行政も学校も、そして私達個人も取り組むものとして定められています。「誰一人取り残さない」ことを理念として、2030年までに、貧困・飢餓・教育・健康など社会的な問題の解決を進めるとともに、持続可能な社会を実現するために気候変動対策や環境保護を図るなど、広範な課題への統合的な取り組みです。

昭和電線グループも、SDGsへの取り組みを推進してまいります。



**昭和電線ホールディングス（株）**  
**（東証1部：5805）**

### **お問い合わせ先**

昭和電線ホールディングス（株）  
事業戦略本部経営企画部  
TEL：044-223-0520  
E-mail：kouho@hd.swcc.co.jp

本説明資料に記載されている将来の業績予測値は、公表時点で入手可能な情報に基づいており、潜在的なリスクや不確定要素を含んでおります。

このため、実際の業績は、さまざまな要素により、記載された予測値と大きく異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。

実際の業績に影響を与える要素としては、経済情勢、需要動向、原材料価格・為替の変動などが含まれます。なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。

<http://www.swcc.co.jp/>

# <Appendix>



**Creating for the Future**

**昭和電線ホールディングス（株）  
（東証1部：5805）**

<http://www.swcc.co.jp/>


# 前中期経営計画における構造改革

	コメント
事業会社 再編・組織の スリム化	<ul style="list-style-type: none"> <li>①持株会社機能の見直しと組織のスリム化</li> <li>②事業会社の再編 ⇒ 国内連結事業会社3社を統合</li> <li>③電力システム構造改革の継続 ⇒ 国内需要へ注力し、収益性向上</li> <li>④ワイヤハーネスの構造改革 ⇒ 固定費削減と海外生産体制見直し</li> <li>⑤グループ本社機能の移転（東京都港区 ⇒ 川崎市）</li> </ul>
資産の 有効活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>①遊休施設、土地の活用（電力システム）</li> <li>②グループ内拠点集約（流通倉庫、営業事務所）</li> <li>③資産売却（投資有価証券）</li> </ul>
不採算事業の 再生に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>①全事業セグメントにおいて黒字化達成</li> </ul>
海外事業の 再生に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>②海外巻線現地法人は、合併パートナーと構造改革を継続</li> </ul>

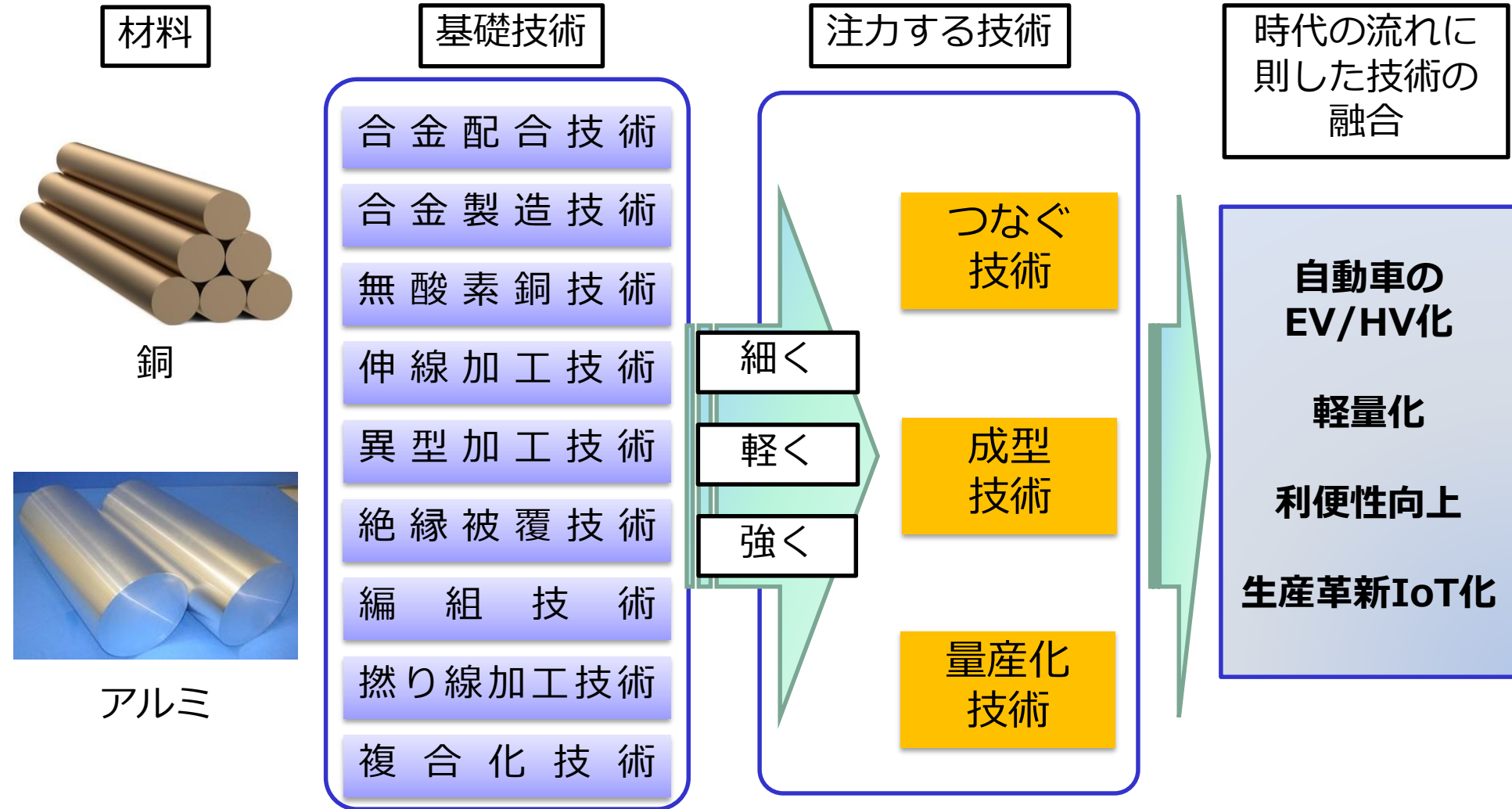
**中期経営計画を**

**1年前倒し達成**

# 中期経営計画2022：事業収益力強化

	項目
事業収益力強化	<ol style="list-style-type: none"><li>1. グループ経営資源の結集【構造改革】<ol style="list-style-type: none"><li>①営業体制効率化</li><li>②生産拠点・物流拠点の統合、再編</li><li>③グループ会社統合、再編、スリム化</li></ol></li><li>2. 他社との提携 業務提携、生産委託、受託等による設備の有効活用</li><li>3. 業務の労働生産性向上 ITを活用した業務改善 【業務プロセス改善 ⇒ 働き方改革】</li></ol>  <p>【収益性低下事業の縮小・撤退】</p>

# 中期経営計画2022：グループコア技術





# 中期経営計画2022：海外事業の展開

## 海外事業の 新展開

### 項目

#### ①中国合併事業の成長戦略

富通集団有限公司とのパートナーシップ  
中国におけるEV関連需要の取り込み



#### ②デバイス事業の成長戦略

【産業機器関連、車載向けへの拡大】

2018年3月 ワイヤハーネス事業 ベトナムで新会社設立

#### ③海外パートナーとの協業



海外事業会社営業利益 2017年度 4.4億円⇒2022年度6.5億円

海外持分法適用会社利益 2017年度△4.2億円⇒2022年度4.0億円